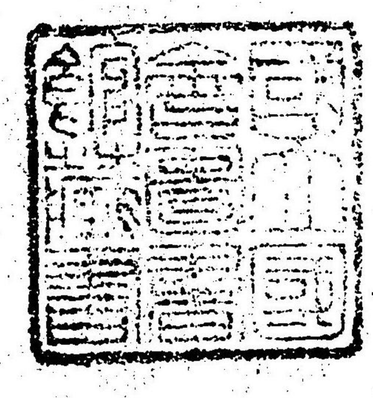
存佚文書

和名抄諸國郡鄕考

一冊

291.034
T472w

291.034
To472m



238209

命新参新町へ。てーれたちのうち人
まで。おのゞ五世長つの国ゝ。ちかゆゝる
俗ゝ一きらゝ行きば。ゑゆゝむ三ゝ五
ゝゝでなうゝ。ひゝゝ。箱ゝゝ
乃うつ色ゝ。ゆゝわゝ半ゞ丈ゝきけ
里。ゝけゝゝれゝゝ寸ゞ布ゝ。ゝゞ。ゝゝ
一ゝゝ。却ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ

やごとなき人ほどもいと多くはべるぞ。
きはめすぐるは少くなりぬ。和名抄なる國郡郷の
名の目ぬきなどもいとたくさんにそのかうべへ
書ひとしくもしのあるべきなるは多くはべ
ぬ力ありてげかぐ。必ずなり手ならん人もおも
もらなるかが。なほりくに。おのをそのもやや
少き和處にて京ほとりなるをその名なる

ちかくなりぬる。少し出てはべる
ほどにいまを歳ぬて。そのつぐなかをこれ
少古書はべらなる所私よりども。はべるうち
をはべりしが。はべ理ひとうひあらずおば
えしなど。はべをえん長ぬる。海もまり者。
はべりぬるはべなんおげよたり。その仮
おのを故はべり。はべ國り海うり学しし。

ぬしをこそ。子準清。拘崎の主型氏うやどりなりしが。心来一。原山の家う迎つゝしを。おりしも志ゝ女の糸なるこゝ。重ゝ海く偉く。勅ゥ弓づく。えびゝ孫兵つひこ。ゝゝゝゝ喜ゝ重。ゝゝやどりき。そゝむど。父のつゞりかは。ゝ書カキなりとゝ。ゝ書フミ又ゝゝゝの

あゝゝきゝ事多ゝつゞゝゝゝ物。きゝゝけゝ糸。とおのゝつゝゝ眼エチコのゝ。やゝゝぎゝゝ。ゝゝゝゝはゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝ書フミ世ゝゝくやゝ主つく。おく聲。板ヱ彫ゝゝて。ゝゝゝく物ゝゝ。ゝゝゝゝゝゝ。ゝ無

今上の清代ミヨゝゝゝゝゝゝ。古ゝ復カヘしまる

こゝにつゞくの。明らかに治まれるやとなるふ
ゆゝしく。りこ(コリ)ゝ儒とゐ人きりの云ゆこゝやこゝ定ゆ
ゝつゝ。ゐ代田のこゝもの市(イチ)ゝ定れやどりまゝ
ゐまゝしまゝつ。

道蔭芳樹

諸國郡鄉考序

日月星辰繫乎天而山川鄉邑盤乎地二者之形動靜不同而其名則動者未嘗變而靜者有時乎變其初變也口碑傳之文籍紀之及其久轉傳訛謬茫乎難詰考古之士逐名求實就今推古多方求索如求唐子豈有力者夜半負而走乎徒發亡羊之嘆而止夫郡鄉者戸口之登耗關焉貢稅之多寡繫焉何可附諸不可知而止苟有耽古而博涉者原始要終優柔以求之則安知無有始之求而不得者今則忽然而至向之沒而不顯者今則躍然而出乎

特病未得其人焉耳如吾富永好問豈非所謂其人耶好問夙攻國籍最覃思於郡鄉沿革自史傳地誌至紀行和歌稗官野乘博蒐旁搜挈確證訂訛傳作郡鄉考十五卷考鏡精覈晦者以顯閟者以露譬之弱喪之得再歸故里不亦愉快乎頃日其嗣子準清携過吾廬致先人易簀之言曰予夙理國籍多所撰述尤儲精於是書汝校訂畢業齎抵吾故人叔果乞序刻之廣其傳噫好問逝矣憶予曾與好問俱事先師綾瀨翁於楓江也佳書同繙奇文俱賞其北歸先師爲設宴餞之相與言志歡飲達旦先師樂甚好問賦詩留別予作序送之期與有爲事如昨日僂指已歷二百二十甲子矣而先師墓木已拱好問亦不可復見而當時同遊之存蓋十無一二又曷勝山河之歎哉好問才識優贍博涉墳籍承先世遺業精究眼科已能醫盲於目者又以所得之餘併能醫盲於心者家素富財喜賙人窮厄惠溢鄉曲名噪北陸可謂能償其志矣而予則才迂識暗時之所向吾背之人之所棄吾取之遭值恒艱萎茶不振今也耄且及之一無所爲愧師友實多今欲序好問所著搦管而輟者數矣顧已負昔者所與期豈可又負其

易簀之言乎抑方今　大運斯復
皇化隆興務覈名實百事維新郡郷之名亦復乎古者有
之變乎今者有之吾復安知不後之視今猶今之視古耶
因書以諗後之繼斯著者

明治二年己巳仲冬

東京金陵芳野世育撰

やまひうありたんゆゑまく
ものをもらいしよりこのかた
準后のうちより告られしよ
りこのかた物ぐきて養まゐと
ゐなどをそなうたうしありし
ゆゑ物せしかの記ぶら
ふくあらぐへあたる考てあるき

あどもよ見ゆるぎうハ佐ら
ものいそび佐のの世人の考へ
もちる事どもおちもまく
かぐつあるるきあど
つくしびくとそなりまるを
かるいそどきをものくて
いそぐものあるく雲泉水野よ

報きゝあつめられ所々しく
ふるをきゝたゞすべきなり
おのれ考うるに世に諸國名義
考二冊あり〳〵て本末ある〳〵せ
つれども猶國号のこゝろをもて郡郷
村里いゝ〳〵ゆゑ所ゆゑ
いと詳くしるして此十二あり

ぬれど物ゝ〳〵て道筋つゝ
ぬるゝ所ゝ〳〵ハ
いまゞとしあらきゝ所ゝ
ゝでのゝ山ゝ
ゝしんされゝ
ぶゝのまゝ
めりの世ゝ

あるときぬる時や夢ぬしを
新しび聞ゆ
さばかり秋才をかぎりてとぶ鳥
なんがいてくちをしく
見し歌く老の涙も絶さ
人もとそ思くいとぶせん
あれ水のとなりきたりぎ

牛の子の
藤原

例言

此書ハ。先考のみづから抄出て。地名のゆゑよしを記さをし。和名抄郡郷の考あを。たゞお紙のをあらに。本書を悉く校正して。魯魚をたゝし。名義を解むとせらをしかど。いをしに大業あれば。其志のをにて。此部をたに全く事畢すて。みまかられしかば。おの紙準清。をを紹き述むとする物から。學淺く識うすくて。世にれはやけにせんに資に乏しく。空しく蠹魚のすをかとあし果むとするかいをがあしくて。再ひ校訂して。板に彫らしにるにあ

む。

引用の書。延喜式ハ民部式兵部式あと。令義解ハ令。或ハ義解。日本紀ハ神武紀仁德紀あをゝ記ー。續日本紀ハ續紀。日本後紀ハ後紀。續日本後紀ハ續後紀をー。まゝ諸國風土記。諸國名勝志。伊呂波字類抄。和字正濫抄。源平盛衰記あをの如き。みな單に風土記。名勝志。字類抄。正濫抄。盛衰記とやうに。省き記せり。其外引書も。これに准へて見るへー。

下に訓注あるハ。傍らに訓を付けぎ。また疑をーくおは

ゆるそば。みな訓を缺たを。

先考の友人に聞紀ー說そば。みあその姓名を載せたり。さをぞも。其人の著書の中に見えて。今あらたに世に行むゝそば。その書名を更に擧げた。

今按とあるハ。そあ先考れ私斷あれど。たま〳〵今按の字を洩せるもあを。そハ行文によりて知る爲ー。

一人にーて。巨多の郡郷を搜索せる。もとより紕謬あき事あたれ。後にみん人。教示ーたまふことあらも。幸ひ何かを。是にあくべれ。

明治三年庚午春三月

男 準清謹識

和名抄諸國郡鄉考目次

卷之一 畿內上

山城 郡三 鄉三十三

卷之二 畿內中

山城 郡五 鄉四十五

大和 郡十五 鄉八十九

卷之三 畿內下

河內 郡十四 鄉八十

和泉 郡三 鄉二十四

攝津 郡十三 鄉七十八

卷之四 東海道上

伊賀 郡四 鄉十八
志摩 郡二 鄉十四
參河 郡八 鄉六十九

卷之五 東海道 中

遠江 郡十三 鄉九十六
甲斐 郡四 鄉三十一
相摸 郡八 鄉六十七

卷之六 東海道 下

武藏 郡二十一 鄉百十八
伊勢 郡十三 鄉九十四
尾張 郡八 鄉六十九
駿河 郡七 鄉五十九
伊豆 郡三 鄉二十一
安房 郡四 鄉三十二

上總 郡十一 鄉七十六
常陸 郡十一 鄉百五十三

卷之七 東山道 上

近江 郡十二 鄉九十三
飛驒 郡三 鄉十三

卷之八 東山道 下

上野 郡十四 鄉百二
陸奥 郡三十六 鄉百八十八

卷之九 北陸道

下總 郡十一 鄉九十一
美濃 郡十八 鄉百三十一
信濃 郡十 鄉六十七
下野 郡九 鄉七十
出羽 郡十一 鄉七十一

若狹 郡三 鄉二十一
加賀 郡四 鄉三十
越中 郡四 鄉四十二
佐渡 郡三 鄉二十二

卷之十 山陰道

丹波 郡六 鄉六十八
但馬 郡八 鄉五十九
伯耆 郡六 鄉四十八
石見 郡六 鄉三十七
越前 郡六 鄉五十五
能登 郡四 鄉二十六
越後 郡七 鄉三十四
丹後 郡五 鄉三十五
因幡 郡七 鄉五十
出雲 郡十 鄉七十八
隱岐 郡四 鄉十二

卷之十一 山陽道上

播磨 郡十二 鄉九十八
備前 郡八 鄉五十一
美作 郡七 鄉六十四

卷之十二 山陽道下

備中 郡九 鄉七十二
安藝 郡八 鄉六十三
備後 郡十 鄉六十五
長門 郡五 鄉四十
周防 郡六 鄉四十五

卷之十三 南海道

紀伊 郡七 鄉五十五
淡路 郡二 鄉十七

阿波 郡九 鄉四十六
伊豫 郡十四 郡七十二
卷之十四 西海道 上
筑前 郡十五 鄉百二
豐前 郡八 鄉四十三
卷之十五 西海道 下
肥前 郡十一 鄉四十四
日向 郡五 鄉二十八
薩摩 郡十三 鄉三十五
讚岐 郡十一 鄉九十
土佐 郡七 鄉四十三
筑後 郡十 鄉五十
豐後 郡八 鄉四十七
肥後 郡十四 鄉九十
大隅 郡八 鄉三十七
壹岐 郡二 鄉十一
對馬 郡二 鄉九
通計六十八國 郡五百九十二 鄉四千三十九

和名抄諸國郡郷考卷一

富永春部纂述
男準清校

越後

畿内上　義解畿猶疆也言王城之内○續後紀承和三年十月承前之例畿内國次以大和國爲之第一○新式改之以山城國爲處之第一○民部式畿内とも五畿内ともありまた畿内の外を畿外諸國とあり○北山鈔畿内字治都久仁

山城　夜萬之呂國　式大

後紀延暦十三年十一月詔曰此國山河襟帶自然作城可制新號宜改山背國爲山城國○拾芥抄山城國元山背○諸社根元記夫山城大和河内和泉攝津此五ヶ國を畿内といふ中にも山城は北へぬけ出て殘る四ヶ國の後にある地形なれは元は山背と書て山しろと讀けるにや今按名義はこの説の如くならんか背を城とかくは山河襟帶自然作城とあるに依て古へよりはやく城を志呂ともいひしゆゑに當られたる字なるへし松の落葉に山背の名を山城とかへ給へる也制新號とあるは文字のみにはあら

す稱號もかはれる也城を之呂とよめることは古書になしといへるはひかこと也既に出雲風土記能義郡野代神社神名帳には野白神社とあるを此抄には野城郷とせるを以て知るへし○本朝通紀黒川氏云凡山城國東北環近江若狹西南連丹波攝津河内大和伊賀而西北枕山嶽之險東西帶洪河之阻地勢廣濶風氣和暖田宅豐饒而四民安逸也平安城魏然立中土前朱雀後玄武左青龍右白虎四神相應萬世不易之地也○國造本紀以天一日命爲山代國造即山代直祖○又山城國造槇原朝御世阿多根命爲山代國造また山背國造志賀高穴穗朝御世以曾能振命定賜國造かく山背と山城を別所のさまにしたるいいふかし○朝野群載陰陽道祭使和邇堺會坂堺大枝界山崎堺右今月廿七日爲祭冶部外四所鬼氣差件等人宛使發遣天曆六年六月廿三日○康富記寶德二年五月二日今夜四角四堺祭被行之皇屋四角艮巽坤乾堺外四堺會坂大枝龍華山崎○山城名勝志和爾龍華ともに山城國北堺也和爾ハ龍華の北にあり龍華ハ山城近江の堺に山城峠あり其北に椽生村あり龍華椽生と云此村の東也會坂ハ東堺大枝ハ西堺山崎ハ南堺なり○類聚三代格寛平七年十二月三日官符曰應禁止五位以上及孫王輙出畿內事但山城國內東至會坂關南至山崎與渡泉河等北涯西至攝津丹波等國堺北至大兌山南面不在制限○凡錄式大式上者延喜式定國大小者以下倣之今案戸令曰凡郡二十里以下十六里以上爲大郡〔凡戸以五十爲里二十里一千戸也十六里八百戸也〕十二里爲上郡〔六百戸〕八里以上爲中郡〔四百戸〕六里以上爲下郡〔三百戸〕二里以上爲小郡〔百戸〕而國有四等曰大曰上曰中曰下蓋亦以戸口多少定其等也故其管僅四郡而有上者有中者有下者其管十餘郡而有上者有大者其所統郡大小不同也

源唱朝臣爲方之時奏明以河陽離宮爲國府

拾芥抄源唱朝臣爲重任之時河陽離宮爲國府○朝野群載自山城國與渡津浮巨川西行一日謂之河陽往返於山陽南海西海三道之者莫不遵此路○類聚國史弘仁十年二月遊獵于水生野日暮御河陽離宮水生村窮乏者賜米有差○續後紀承和十二年二月行幸河陽遊獵○三代實錄貞觀三年六月七日山城國奏言河陽離宮久不行幸稍致破壞請爲國司行政處但不廢舊宮名行幸之日加掃除許之○又元慶五年正月太政官下符山城攝津等國偶前伊勢齋內親王來二月二十二日首途自大和道經山城河陽宮到攝津難波海解除○本朝文粹河陽則介山河攝三州之間而天下之要津也自西自東自南自北往返之者莫不率由此道〔江以言見遊女〕管八國より管あるよし管今も八郡なり

田八千九百六十一町七段二百九十歩正稅公廨各十五萬

東本稻五十萬四千七十九束三把雜稻二十一萬四千七十九束三把今按正稅

ハ田租也令義解に新輸曰租經貯曰稅と見えて租稅同物なり公廨ハ國衙入用の稻穀也本稻ハ口分田所輸の租稻にて或ハ當年に京に上す租或ハ後年まて貯ふる稅をひとつにいへる名目也雜稻ハ口分を除きて諸田より出す所の稻也賦役令に地租及雜稅とありて雜稅の義解に出擧稻〔今按米穀を貸出したる利米をいふ〕及義倉等是也とあり租の經貯せるを正稅と云此外に種々の名目ありて主稅式所謂國分寺料文殊會料衛卒料修理官舍料池溝料救急料公廨の類皆雜稅なり此正稅雜稅を出擧するを出擧稻といふまた義倉の類も雜稅也

乙訓於止久邇　拾芥抄府とあり河陽離宮をいふ○垂仁紀十五年二月喚丹波五女納於掖庭第五曰竹野媛唯竹野媛者因其形醜返本土則羞其見返葛野自墮興而死之故號其地謂墮國今謂弟國訛也○繼體紀十二年三月遷都弟國○名勝志當郡東限桂河下流南限淀河西南限水無瀨河西限葛野加止乃出羽村川北限丹波龜山路　葛野郡○後紀延曆十二年三月幸葛野巡覽新京十三年十月遷都詔曰葛野乃大宮地者山川毛麗久四方國乃百姓乃參出來毛便之氏云云○歷代編年集成西京葛野郡又謂右京○拾芥抄左右京限以朱雀中央○本朝文粹余二十年以來歷見東西二京西京人家漸稀殆幾幽墟矣〔慶保胤池亭記〕　愛宕於多岐郷名より出たる名也　紀伊岐　宇治宇知郷名より出たり　久世久世郷名より出たり○續後紀天長十年山城國久勢郡○東大寺奴婢籍帳山城國久西郡紀里戸主水尾君眞熊戸口云々○風土記殘編東西十三里東限長野川西限藤岡南限百舌鳥原北限小川當郡川多山　綴喜豆々岐郷名より出たり　相樂佐加良加郷の部少民家富有而出竹木奇沙へしいま佐加良とよへり

乙訓郡

山崎夜末佐岐　兵部式山城國驛山崎二十疋○後紀弘仁二年閏十二月遊獵于水生野御山崎驛○類聚國史弘仁四年二月遊獵于交野以山崎驛爲行宮五年二月遊獵于交野日暮御山崎離宮○三代實錄天安二年八月令山城國司警護宇治與度山崎道以東南西三方通路之衝要也又云仁和二年二月山城國山崎津頭失火延燒居民廬舍數十宇○日本紀畧天祿三年閏二月山崎津鬬亂事出來中矢之者三人○

明月記建永元年六月自去夜入列卒於山崎山被追鹿已一點出御了○帝王編年記仁德天皇十一年十月堀難波江築茨田堤今山崎河通海是堀江也○土佐日記けふのよりさりつかた京へのはるついてにみれゝ山崎のこひの玄もまかりのれはちのかたもかばらさりけりこれ山崎ゝ京に入るの道也○雜式山城國云々山崎橋攝津伊賀等國各六枚播磨阿波等國各十枚（汝數也）○行囊抄山崎ハ庄ノ名也○大安寺資財帳山背國三處乙訓郡在山前郷○爲尹卿千首河時雨山さきやむかひの雲の一むらゝ淀の河瀬に時雨來にけり○柴田退治記羽柴筑前守秀吉者天正十年十月十五日相勤將軍御葬禮以來帝都坤角山崎上拵一城見下五幾內相鎮生民○諸國廢城考山崎城○諸州巡覽記東寺より山崎へ三里其間唐橋桂の里かつら川向日明神を過く（今案土佐日記にかける嶋坂ゝ向日の南のかたにあり）

鞆岡度毛

名勝志下海印寺村巽圓明寺村西北有鞆岡村土人ともかと云○

乎賀

行囊抄自路右ニアリ今里俗ハトモカト稱ス此所ハ催馬樂ニウタフ名所ナリ此邊ヨリ右長法寺村粟生光明寺長岡ノ舊都ハ小塩山大原山ニッゝキタリ乙訓郡大原ノ內なり○梁塵秘抄（このさゝはいつはのさゝろどねりらかこしにさかれるともをかのさゝ○枕草紙ともをかとさゝのかひたるがをかしきなり）

長井（ナカヰ）　**大江**

於保江　朝野群載山城國四境大枝堺西堺也○園大曆觀應二年正月或人云北手自於伊山入來文南方合戰以外也京方勢引退鳥羽邊○諸陵式大枝陵贈大皇大后高野氏在山城國乙訓郡兆域東一町一段西九段南二町北三町守戶五烟○續紀延曆八年十二月葬於大枝山陵上諡曰天高知日之子姬尊皇大后始和氏諱新笠贈正一位乙繼之女也云云生今上早良親王能登內親王實龜中改姓爲高野朝臣○名勝志按大江の山越は丹波國龜山の通路にして山城國七道の一也此山に登る坂路あり大江の坂と云峠に地藏堂あり大江の地藏といふそれより西に下ること一町餘にして山城丹波兩國の境あり然れは大江山は山城の內なるへしされとも三十八帖歌枕其外名所集等ミな丹波の國に入たり和名抄大江郷山城國乙訓郡に入れり後人これを詳らかにすへし○今按今大江の郷はなし大江の坂の麓にある沓掛村塚原村なと此郷の內なるへし○閑田耕筆山城丹波の堺樫原の西に俗老の坂と稱ふるものあり大江山の坂を誤るなり和名抄乙訓郡大江とあり慈鎮（今案新古今集慈圓につくれり）和尚の歌にも（大江山かたふく月のかけさえて鳥羽田の面ゝ落るかりかねとあるは是なり云云又丹波の堺なるものは酒天童子といふ賊のこもりし所にて今千丈ケ嶽といふ大江山いくのゝみちの遠けれはと小式部內侍のよみ

しは其母和泉式部保昌朝臣にたくひて丹後に
ありしはとなれはうなたなることとしるへし　物集毛豆女　續後紀承
月癸未後太上天皇崩于淳和院戊子奉葬後太上天皇於山城國乙訓郡
物集村御骨碎粉奉散大原野西山嶺上（名勝志大原山陵淳和天皇陵歟
文德實錄八陵之內嵯峨山陵下深草山陵上載之）○今按物集村在向明
神西北寺戸村北節用集物集女と書けり太平記これにれなし○出觀
集にし山のもつめにてもりたまへるころ云云○正祿間記西の岡に
て雞冠井同物集女云云○行靈抄雞冠井村路ヨリ左ニ在櫃原村自路
右物集村自道右櫃原村ニ並テアリ○仁和寺諸堂記紫金　訓世郡勢萬
臺寺此御堂初者被立西山物集庄其後被渡此寺境內畢　葉
集（十一）開木代來背若子欲云余○名勝志今有上訓世二村○後
紀弘仁六年六月山城國乙訓郡物集國背兩鄕雷風壞百姓廬舍人或被
震死先是大蛇入人屋即殺之未幾其人被震○蜻蛉日記二十二社注　模本
山城國久世のミやけといふ所にとまりぬ云云　式春日社小
神御在所條自榎本社一町西祓戸明神○名勝志引三鈷寺維々文書云
右大臣家政所下雞冠井殿寄人沙汰人等文云榎小田里蓋榎本鄕同所
敷　羽束波豆賀之　神名式羽束師坐高御產日神社○內廳式園神祭十四
坐中羽束志園三坐○續紀大寶元年四月勅山背國月

讀神樺井神木嶋神波都賀志神等神稻自今以後給中臣氏○三代實錄
貞觀元年九月山城國月讀神木嶋神羽束師神水主神樺井神和伎神等
遣使奉幣爲風雨祈焉○東大寺奴婢籍帳山城國羽束里戸主長岡坂本
國磨呂戸口（今案羽束羽束誤）○方丈記嶺によちのはりて遙に古鄕の
空を望み木幡山伏見の里鳥羽羽束師をみる○太平記羽束使○盛衰
記維盛等郡落東寺四塚造路御吉野志賀柳原淀津羽束六田河原ヲ打
過ヲ云々（今按ふの御吉野六田河原ハ大和國なるとハことなり）○後
撰集（忘られて思ふ歎のそけるとや身をはつかしの森といふらん○
續拾遺集（もらしても袖やそをれん數ならぬ身をはつかしの森の雫
ハ（後成）○金葉集（家の風ふかぬものゆゑはつかしのもりのことの葉
散らしつるかな（顯輔）○吉野詣記水無瀨より興にて歸りにけりはつ
かしのもりのはとりにてこしをたてたる○名勝志古河村北有羽束
師森按羽束師鄕今古河村邊歟自久我村半里許南也○行靈抄　石作以
羽束師杜神社アリ羽束石大明神ト云下鳥羽ノ西南ニアリ
之都久利　後紀延曆十一年十一月幸高橋津便遊獵于石作丘○三代實錄
貞觀元年正月奉授正六位下石作神從五位下○又元慶三
年閏十月勅以山城國乙訓郡公田五町爲元慶寺田而四段三百十六步
返入石作寺○玄蕃寮式凡近都諸寺東拜志以北西石作以北停預講師

338309

賴國云此文ハ除クベシ「ハシモトと訓むへし今もハシモトと云ふ也」

僧綱檢察拜志寺在紀伊郡○空穗物語かくていしつくりてらのやくしはとけけんし給ふとておはくの人まうて給ふ○續古事談藥師佛をつくり奉りて丹波國石作寺にうつし奉れり又石作寺の藥師靈驗の佛なりろれに祈るへし〔名勝志按續古事談謂丹波國石造寺者誤字津保物語屬山城但石作鄉近丹波故誤爲丹波後人傳寫重妄者乎〕○諸陵式石作陵贈皇后高志内親王在山城國乙訓郡兆域東西三町南北三町守戸五烟○今按姓氏錄火明命六世孫建眞利根命之後也垂仁天皇御世奉爲皇后日葉酸媛命作石棺獻之仍賜姓石作大連公也この氏人の住たる所なるへし

葛野郡

橋頭 今按これハシヅメと訓へきか萬葉集(九)見河内大橋獨去娘子歌の反歌に大橋之頭爾家有者心悲久獨去兒爾屋戸借申尾とあり橋頭鄉今さたかならず **大岡** 於保乎加 續紀天平十七年二月天皇備駕欲幸大丘野○諸陵式大岡墓桓武天皇夫人從三位藤原氏在山城國葛野郡大岡鄉守戸一人○扶桑略記寛平十年六月廿六日是日差遣宣命使於藤原夫人墳墓在葛野郡西山依天下疫御占之處西方之女墓有穢物祟之由即遣左右看督長尋ヤ名勝志今上山田下山認其地今日遣使又下山城國始令置守陵人 **山田** 名勝志今上山田下山田トヲ松尾社南北里アリ松尾社モ山田庄也 **川邊** 加波乃邊 いま不詳 **葛野** 加度乃 類聚國史光仁天皇寶龜十野川入野宮又弘仁四年八月幸葛野川○西宮記堤河葛野川已上夏供紬 **川島** 加八之末 名勝志今下桂村西有河嶋村○日本紀累昌泰元年十月太上皇遊獵上皇騎御馬出自朱雀院至川嶋始命獵騎日暮宿赤日御廚○太平記桂川ヲ渡リ河嶋ノ南ヲ經テ物集女大原野ノ前ヨリ寄タリ○園太曆觀應二年正月今朝差西沒落欲籠香山寺城之處於伊山敵切塞不通仍逗留桂河西河嶋邊○諸陵式河嶋墓贈正一位當麻氏在山城國葛野郡幕戸一烟○長享年後兵亂記天文十一年十月五日上野玄蕃河内城攻同六日至大將軍討死 **上林** 加無都波也之 類聚三代格貞觀十四年十二月官符云應充正一位平野神社地一町事在山城國葛野郡上林鄉九條荒見西河廿四坪四至東限荒見河南限典藥寮園西限社前東道北限禁野地○名勝志引北野御託宣記云天滿天神宮創建山城國葛野上林鄉右京七條二坊十三町〔今按いまの七條此鄉内歟〕 **櫟原** イチハラ 類聚國史弘仁四年十月遊獵櫟原野○三代實錄元慶五年九月山城國葛野郡櫟原野鄉地三町賜興福

寺傳燈大法師位修審先是修審申牒此地元嵯峨院四至之内也貞觀六年申督淳和院建立道場定大覺寺四至之内還爲公地○惠慶法師集人どもろともにいちいち野に子日して（ふた葉なるのへの小松にことよせて木高くならん陰をこそまて○著聞集鞍馬まうてのものゝ夕くれにいち原野を過けるにぬすみに逢てきたるものゝきとられきすをおひて侍ると人のかたるを聞て慶算かよみ侍りける（夕くれにいちはらのにておふさすいくらまきれとやいふへかるらん○今も鞍馬路に櫟原野とよふ處あり

高田 東大寺古文書に讓與私領田地事合壹段者在高田道祖神前○名勝志今高田村在大井川東太秦坤

下林之毛都波也之 名勝志今下林村在河島村南此地有蓮生寺今建仁寺末寺也有蓮生法師塔是宇都宮入道墓歟

緜代 不詳

田邑 多無良 名勝志仁和寺邊歟○文德實錄天安二年九月大納言安部朝臣安仁率陰陽權助滋岳朝臣川人助笠朝臣名高等至山城國葛野郡田邑郷眞原岳眞原今名廣野點定山陵○三代實錄天安二年八月廿七日文德天皇崩於冷然院新成殿九月葬於眞原山陵送終之禮皆從儉約十二月詔改眞原山陵爲田邑山陵奉充田村山陵陵戸四烟○前皇廟陵記田邑郷眞原岳今廣野是也在葉室山南村名廣野村西皆山也山下有寺號地藏院東野有陵故廣野亦號陵村○名勝志田邑陵法金剛院邊歟○諸陵式田邑陵平安宮御宇文德天皇在山城國葛野郡兆域東西四町南北四町守戸五烟○又云光孝天皇在山城國葛野郡田邑郷立屋里小松原陵戸四烟四至西至芸原岳（クサノカワ）南限大道東限清水寺東（前皇廟陵記にい東の西の誤歟といへり）北限大岑○扶桑畧記葬山城國葛野郡後田邑陵一云小松山陵○皇年代私記葬小松陵號小松帝○江次第後田邑仁和寺西大敎院艮○拾芥抄後田邑光孝天皇在仁和寺大敎院丑寅○前皇廟陵記今失山邑立屋芸原等名清水寺亦滅非東山清水寺小松原今稱松原地存其名耶在平野西○又云古仁和寺所在之地號本寺野其後在雙丘西近年更造仁和寺于本寺野大敎院地不可知今仁和寺西行鳴瀧道上有小丘人謂之光孝天皇陵

愛宕郡

蓼倉多天久良 山州名跡志愛宕郡紀所名ナリ下賀茂トモ有今出河口東北二町許云々此所古ノ蓼倉也○名勝志蓼倉下鴨東北地高野川西也○小右記蓼倉郷寛仁二年十一月奉寄賀茂下社四郷内○野府記長元四年七月永圓僧都所送蓼倉尼寺司申文調度文書等遣頭辨許○永享年中寺社文書山城國蓼倉社○神名頭注三井三身社也本縁見風土記賀茂武角身命也又云蓼倉郷三身社稱三身者賀茂武

角身命丹波伊可古夜日女玉依姫也

三神身坐故名三身社今漸云三井

栗野

久留須名勝志引和名抄云栗栖郷愛宕郡鷹峯東有御栗栖野今西賀茂南○三代實錄元慶六年十二月愛宕郡栗栖野○小右記寛仁二年十一月官符可奉寄賀茂上下社郷之事下社栗栖野郷四郷内又云至栗栖野郷有採下社葵之山仍爲下社分○源氏夕霧隨身なとのをのことものくるす野のさうぢかゝらんま草なととりかはせて花鳥餘情此物語にくるすの庄ちかゝらんといふ所ゝ此所なりまた宇治郡にも小野栗栖野有それをいふにあらす○類聚國史延暦十四年十月遊獵栗栖野○明衡往來明日紫野見物可候御車且又於栗栖間可聞郭公也○三代實錄貞觀十六年八月大風雨權律師法橋上人位宗叡預造御願寺在山城國愛宕郡栗栖野堂舍顚覆佛像元在北山高岑寺貞觀十三年大雨水自然以大巖石塞其道路行人不通去高岑寺移立於栗栖野○主水式山城國愛宕郡云云栗栖野一所土坂一所賢木原一所同郡石前北一所とあるみな愛宕郡内の氷室也○名勝志今西賀茂西山千束村氷有氷室村有氷室明神社并氷池古跡是栗栖野氷室乎○續後紀天長十年九月天皇幸栗栖野遊獵便幸綿子池令下神祇少副從五位下大中臣朝臣磯守放所調養隼拂水禽

上栗田

阿波多姓氏錄山城皇別栗田朝臣○名勝志引和名抄云愛宕郡有上栗田郷下栗田郷二郷今栗田口其遺名也中世又號北白川其白川亦至于今淨土寺村北爲一村名而已○又云京之東郊曰栗田郷此古郷名也中世其稱更爲白河因水名也白河名亦廢而今三條有栗田山淨土寺村北有白河村其遺跡僅存矣○又云上下栗田郷共屬愛宕郡栗田山屬宇治郡今從三條白川橋迄山際號栗田口通江州大津驛○山陵志京之栗田中世名改爲白河今又別爲一村白河村一山栗田山○三代實錄元慶四年十二月四日太上天皇崩於圓覺寺時春秋三十一自遜皇位御清和院云々俄而入丹波國水尾山定爲終焉之地七日夜酉四刻奉葬太上天皇於山城國愛宕郡上栗田山奉遣御骸於水尾山上○前皇廟陵記上栗田山今北白河勝軍地藏山耶白河屬上栗田郷○元德二年三月日吉社並敞山行幸記元亨三年二月五日寶幢院の衆徒西坂本に發向して養父里一乘寺以下ゝ在家悉燒ゝらひ云云藪里ゝ栗田郷のうち鴨社領なりけれは云云

大野

名勝志引賀茂氏人注進略記云大野今大德寺領○後紀延暦二十三年八月遊獵于大野

下栗田

三代實錄元慶四年二月山城國愛宕郡下栗田郷百姓口分田四町二段九十五歩奉充中宮職

小野乎

乃類聚國史弘仁四年十月從四位下左中辨兼攝津守小野朝臣野主等言猿女之興國史詳矣又猿女養田近江國和邇村山城國小野郷○三代實錄元慶二年十二月山城國愛宕郡小野郷○小右記小

野鄉賀茂上社領○花鳥餘情山城國に小野の里といふ所二あり宇治郡に小野里あり栗栖の小野と云醍醐にあり又愛岩郡に小野ありひえの山の西の麓高野といふ所なり○辨引抄師説云西ゝ松崎の山より東は高野山の東の敞山の麓までを小野といふ名所なり井蛙抄よ見えたり高野村の東に小野畠といふ地あり此所に橋あり小野橋といふ此道をは小野繩手といふ田地の字になりてあるなり空穗物語云住わたりける其あたりゝ比敞坂本小野のわたり音羽川ちかくて瀧の音水のこゑあれに聞ゆるなり今高野の南の方に音羽川あり○の水上ひえのやまなる音羽の瀧なり瀧の不動のある所よりのはる道を不動坂といふ此外小野九郷とも大原九郷ともいひて又名所あり敞山の西塔より一里半はと北へ峯より西ゝ小野山といふ名所也東敞山にて近江國の分なり小野山の西のふもとにある九郷の惣名を小野といふ大原といひても名所なり此外西山に大原野とて又同名あるなり小野九郷ゝ戸寺〔八瀬の北〕上野〔戸寺の雙〕大長瀬〔上野の下〕來迎院〔上野の北なり此所より五町東ゝ勝林院音無瀧なり〕草生〔此所寂光院に八十代高倉院の后尼に成て住給へり〕野村〔此所臨清水あり名所なり〕小弟子これなり然れゝ山城國に小野といふ所三ヶ所なり○名勝志比敞山西塔ヨリ北峯ヨリ西凡テ小野山ト云北へ一里半許アリ嶺ヨリ東ゝ近江國也小池の氷室上に見ゆ○和訓栞小野毛人ゝ山城國愛岩郡の小野里なり慶長十八年に高野川の東涯より石棺を堀出す墓誌の鈴金牌を得たり面に飛鳥淨御原治天下天皇御朝任太政官兼刑部大錦上と書し背に小野毛人朝臣之墓とあり今高野寶幢寺に納む惟喬親王の舊蹟も同し小野宮と稱す今上野といふゝ小野の内の上の野なるへし

錦部 爾之古利 野府記 別雷社

領○類聚三代格寛平八年四月官符問山城國民苦平朝臣季長奏狀偁得愛岩郡司解偁錦部郷百姓等愁狀偁鴨河堤邊東西水陸田若干是已等口分事具圖籍○姓氏錄諸蕃漢錦部村主波能志之後也

八坂 也佐加

本朝神社考八坂郷今祇園也○本朝通紀貞觀十一年遷祇園於山城國愛岩郡○姓氏錄山城諸蕃八坂造狛國人之留川麻乃意利佐之後也○續後紀承和四年二月從五位下菅野朝臣永岑言亡父參議從三位眞道朝臣奉爲桓武天皇所建立道場一區在山城國愛岩郡八坂郷雖其疆界接八坂寺而其形勢猶宜別院由是道俗號曰八坂東院伏望限以四至別爲一院擅僧一口永俾護持許之○諸陵式八坂墓贈正一位藤原氏在山城國愛岩郡八坂郷墓地十町墓戸一烟○僧綱補任抄延曆十七年十一月傳教大師創起十講會請七大寺名德十人爲講匠今霜月會是也中納言坂上田村麿山城國愛岩郡八坂郷造清水寺○世諺問答

祇園會の條我朝にていそさのをのみことゝあらいれ貞觀十八年にたくせんの事ありて山城國愛岩郡八坂郷といふ所に神社をつくられたるなり○二十二社注式朱雀院承平五年六月官符應以觀慶寺爲定額寺事字祇園寺在山城國愛岩郡八坂郷地一町

鳥戸止利倍河海抄引山城風土記云南鳥部里稱鳥戸者秦公伊呂具的餅化鳥飛去居其所森今鳥部○諸社根元記引風土記云伊呂具秦公用餅爲的者化成白鳥飛翔居山峯伊奈利生遂爲社名○拾芥抄法皇寺號鳥部野寺○文德實錄天安二年四月庚子是夜寶皇寺火俗名鳥戸寺金堂禮堂盡爲灰燼內藏寮式に件昌蒲佩供御幷人給料外十五條內豎爲使供諸寺とある內に寶皇と見ゆ○今昔物語鳥部寺賓頭盧コソ極驗ハ御ス ナレ○榮花物語長保二年十二月十五日皇后定子〔一條院后道隆女〕みこうまれ給媛子同夜崩とりへの丶南のかた二町ばかりたまやといふものをつくりてついひちなどつきてこゝにおいしまさせんとせさせ給みやゐことし二十五になら〔せ給ふ〕○後紀天長三年五月丁卯恒世親王薨今上第一皇子母贈皇后丙子葬恒世親王於山城國愛岩郡鳥部寺以南山○扶桑略記應德二年十一月八日皇太弟實仁親王薨年十九歲廿八日葬於鳥戸野○諸陵式中尾陵贈皇太后藤原氏在山城國愛岩郡鳥戸郷陵戸五烟山四町五段四至東限谷南限田西限陸北限谷有山○又云拜志墓贈正一位太政大臣藤原朝臣總繼在山城國愛岩郡鳥戸郷墓地四町墓戸一烟○三代實錄仁和三年五月勅以山城國愛岩郡鳥戸郷捺原村地五町賜施藥院其四至東限德仙寺西限谷幷公田南限內藏寮支子園幷谷北限山陵幷公田施藥院使等奏院所領之山元在彼村即是藤原氏之葬地也依元慶八年十二月十六日詔彼占人中尾山陵之內○性靈集故贈僧正勒操大德影讚序春秋七十夏臘四十七以十日荼毘東山鳥部南麓便蒙引顯昭拾遺鈔曰鳥戸山者阿彌陀峯也其下云鳥邊野○山城志絕頂曰阿彌陀峯麓曰鳥戸野其谷曰小松或曰松谷蓋舊葬地也今或爲佛刹或爲民居而墳墓尙存

愛宕於多木後紀延曆二十二年八月幸伊豫親王愛宕庄○諸陵式愛宕墓贈正一位源氏滑和太上天皇外祖母在山城國愛岩郡兆域東二町南一町西一町五段北一町五段守戸一烟○又云後愛宕墓太政大臣贈正一位美濃公藤原朝臣在山城國愛岩郡守戸一烟○河海抄をたき桓武天皇平安城に遷都の時此地を諸人の葬所に定らる見延喜遷都記かしこに珍皇寺と云寺をたつ弘法大師の聖跡として今に東寺の一の長者管領也〔字類抄珍皇寺即愛宕寺參議小野篁卿建立土俗云此寺者山城國國分寺弘法大師幼少之時相從慶俊僧都入住此寺○名勝志引實物集云珍皇寺北にあるを八坂塔と云り然るときゝ八坂法觀寺南邊より今

の六道の邊に至る迄此寺地なりしにや〕○花鳥餘情をたきといふ所今の鳥邊野なり細注にをたき今の六道是也〔名勝志六道在五條末北建仁寺巽角今建仁大昌院管領有藥師堂是珍皇寺本尊本弘法大師開基而東寺門下也故于今自大昌院修新正賀儀東寺長者是依兼帶珍皇寺也〕

出雲 以都毛在上下 名勝志上下出雲寺下鴨邊惣而出雲郷也○神名式出雲井於神社出雲高野神社〔名勝志高野在修覺院村北八瀬里南花鳥餘情にひえの山の麓高野〕○類聚符宣抄寛仁二年十一月太政官符應以山城國愛宕郡捌箇郷奉寄賀茂上下大神宮事御祖社四箇郷蓼倉郷栗野郷上粟田郷出雲郷別雷社四箇郷加茂郷小野郷錦部郷大野郷○拾芥抄上出雲寺下出雲寺○宇治拾遺物語王城の北かみいつも寺○古今集云もついつも寺に人のわさしけるひ眞せい法師の導師にて云りけることを歌によみて小野小町かもとにつかはしける○東大寺奴婢籍帳山城國

賀茂 神名式別雷神社又賀茂御祖神社又賀茂山

愛宕郡出雲郷出雲上下里神龜三年戸籍 茂

口神社又賀茂波爾神社○姓氏錄山城神別賀茂縣主神魂命孫武津身命之後也○節用集上賀茂下鴨○神社啓蒙去王都北半里許山麓有宮曰賀茂別雷神宮○風土記加茂健角身命宿坐倭葛木山之峯自彼漸移遷至山代國岡田賀茂今按こゝ倭より此愛宕郡の加茂に遷り給へるとき相樂郡の岡田と云所にゝはし留まり給へることをいへる也故に相樂郡にも加茂あり混ふへからす○一宮記鴨大明神號下社大山咋父故號御祖山城愛宕郡賀茂大明神號上社大山咋神也號別雷母玉依姫武角身命女○續後紀天長十年十二月道場一處在山城國愛宕郡賀茂社東一里許本號岡本堂是神戸百姓爲加茂大神所建立也天長十年檢非違使盡徙毀廢至是勅曰佛力神威相須尚矣今尋本意事緣神力宜彼堂宇特聽改建○驪驢嘶餘上加茂六郷本郷不入六郷中ニ岳本名ト云アリ其レヨリ菩薩池ノ邊岳本郷ナリ岳本郷小野郷〔一乘寺邊ヲ云ナリ〕河上郷〔氏神ヨリ上西賀茂ヲ云ナリ〕大宮郷中村郷〔已上六郷岳本雅樂助話之〕

諸國郡郷考卷之一終

和名抄諸國郡郷考卷二

富永春部纂述
越後
男準清校

畿内中

紀伊郡

岡田手加多　三代實錄貞觀七年九月相樂郡岡田郷○又云元慶五年六月勅停廢採山城國岡田銅使其屋舍什器付國令守護○賀茂皇大神宮記山しろの岡田の賀茂に遷座したまふ

大里（オホサト）　紀伊郡邑薩戸主輕部午甘戸主又山城國紀伊郡邑薩戸主茨田連族小里下戸口トアル邑薩ハオホサトトヨミテコノ大里ナリ邑ハ加賀郷名於保知トアリ薩ハサツノ音ナリサトコカリタル也又山城國紀伊郡大里郷戸主茨田連族智麻呂又大里郷○今按大里ハ小里と云地に對へたる名ならん歟東大寺奴婢籍帳

にて考へし

紀伊寺　未詳○名勝志紀伊寺深草近隣七箇寺之一也とあり其あたり考へしわろし○山陵志深草西爲京之南郊曰鳥羽○名勝志鳥羽殿城南寺森邊云々森南有呼御所内田地○又云東限竹田南限横大路西限桂川末北限四塚此間有二村隔小枝橋北云上鳥羽南云下鳥羽○石清水御幸記文應元年八月九日新院有臨幸石清水云々鳥羽北川外池尻并鴨川尻亘浮橋(鳥羽殿役也)○續世繼鳥羽殿はこの法皇のつくらせ給へればさやうにや申さむと思へりしかとも白河にはかた〳〵御所とも侍りしかは白河院とろさためまゐらせ侍りける○百練鈔寛治元年二月上皇遷御鳥羽離宮營作甫就之故也件地本是備前守季綱朝臣領也去年進上之贄岐守泰仲造進屋舍○扶桑略記公家近來九條以南鳥羽山庄新建後院凡卜百餘町焉近習卿相侍臣地下雜人等各賜家地營造屋舍宛如都邑贄岐守高階泰仲依作御所已蒙重任宣旨備前守藤原季綱同以重任獻山庄賞也云々池廣南北八町東西六町水深八尺有餘殆近九重之淵或摸於蒼海作嶋或寫蓬山疊巖泛船飛帆烟浪渺々飄棹下碇池水湛々風流之美不可勝計○榮花物語九條のあなたに鳥羽といふ所に池山廣うれもしろう作らせ給はおりさせ給ふへき御心まうけにや云々かの鳥羽院にはしまさせ給十餘町をこめてつくらせ給ふ十町はかりの池にてはるばるとよもの海のけしきにて御舟うかへなとしたるいとめてたし○神皇正統記城南の鳥羽と云所に離宮を立土木の大なるいとなみ有き昔はたりゐの君は朱雀院にまします是を後院といふ又冷泉院にもおはしけるにかの所々にはすませ給はす白河より後には鳥羽殿をもちて上皇御座の本所と定められにけり○增鏡後深草鳥羽殿もちか比はいたうあれて池も水草かちにうもれたりつるをいみしうゆりしみかゝせ給ひてはしめて御幸なりし時池邊の松といふことかうせられしにはきれとゝ序かき給へりき夫鳥羽仙洞三五累墨離宮一百餘載とかや○今昔物語鳥羽村○吉野詣記天文廿二年二月廿三日のあさたひそかに都を出侍る鳥羽よりとつのみまきにまかりけるに近きとしとし水のうれへにたへかね堤をきつくとてはる〳〵とさわたしたるけふもいとなみけり○細川両家記天文廿一年六月三日に晴元御曹司七歳京より鳥羽迄御出河舟にて大物へ御下向○府志上鳥羽と下鳥羽之間是ヲ作リ名勝志今吉祥院村南嶋村北有石原村桂川東也○續紀天道ト云

石原　平十四年八月車駕幸石原宮○三代實錄貞觀十三年閏八月制定百姓葬送放牧之地其一處在山城國葛野郡五條荒木西里久受原里一處在紀伊郡十條下石原西外里十一條下佐比里勅曰件等河原

是百姓葬送并放牧之地也而愚昧之輩不知其意競好占營專失人便須令國吏屢加巡検勿令耕營犯則有法焉○又云山城國野自故治部卿賀陽親王石原家以南至赤江崎承和元年以降百姓不能漁獵重加禁○小馬命婦集いしらにすむをとこ久しくきこえねはとて（いとゝしくもえこそわたれいしらの中よりわれて出るおもひは拜志波以之正澄抄かやうに書て他國に音通いしてはいしもはやしなり○玄蕃式凡近都はやしとよめるは林なり五諸寺東拜志以北西石作以北停預講師僧綱検察深草不加久佐名勝志深草郷東小栗栖南伏見西竹田北稻荷曰此間○欽明紀元年山背國紀伊郡深草里○後紀延暦十一年八月禁葬埋山城國深草山西面縁近京城○三代實錄貞觀四年十月大伴宿禰善男奏言請捨山城國紀伊郡深草郷別墅爲道場許之○諸陵式深草山陵平安宮御宇仁明天皇在山城國紀伊郡兆域東西一町五段南七段北二町守戸五烟○續後紀嘉祥三年三月己亥帝崩於清涼殿癸卯奉葬天皇山城國紀伊郡深草山陵遺製薄葬○三代實錄貞觀八年十二月勅改定深草山陵四至東至大墓南至純子內親王家北垣西至貞觀寺東垣北至谷（貞觀三年六月四至云々北限峰）○又云貞觀六年八月三日仁明天皇女御正三位藤原朝臣眞子薨勅贈從一位葬深草山陵兆域之內○諸陵式後深草陵中宮藤原氏在山城國紀伊郡深草郷守戸三烟東限禪定寺南限大墓西限極樂寺北限佐能谷○行藪抄深草山左右松山ナリ深草ノ內凡一里ァリ其間ハ小坂路ナリ

石井（イシヰ）名勝志土人云伏見九郷內自御香宮迄西追手筋號石井村御香宮坐伏見山西舊御香宮在大龜谷東矢島嶺秀吉公被遷當社處也然有故又復舊地今宮所是也矢嶋峠社地今爲御旅所豐臣秀吉公朝鮮征伐之時自當社有御首途

宇治郡

大國（オホクニ）未詳○穗井田忠友埋麝發香引東大寺古文書云宇治郡印小樣天平寶字五年十一月二日大國郷百姓家地沽券郡判所捺此券无國判○拾遺集神樂歌天祿元年大嘗會風俗かはくにのさと（年もよかしこかひもえたり大國のさとたのもしくかもはゆるかな（兼盛））

賀美未詳○埋麝發香引東大寺古文書云宇治郡印大樣天平廿年九月廿六日加美郷堤田村百姓某家地沽券郡判所捺此券國判用山背國印

岡屋乎加乃也名勝志木幡西宇治川東有岡屋村或云古近衛關白兼經公居之故號岡屋關白此地累世近衛殿御領○類聚國史延暦十二年二月遊獵岡屋野○善隣國寶記引日本古記云建治元年正月十八日蒙古人二人高麗人一人明州人一人自鎮西送之曾不入洛中自山

崎經岡屋醍醐赴關東○名勝志昔自山崎經巨椋岡屋醍醐通關東歟今岡屋非海道○方丈記岡の屋に行かふ舟をみても沙彌か風情をぬすむ○山家集(伏見すきぬ岡の屋に猶とゝまらて日野まて行て駒迄をん○夫木集(日くれない岡の屋にてそふしみなれわけてわたらん櫃川の橋(よみ人しらす)○慈惠大僧正御遺告岡屋左一處田地百三十餘町載在劵文右丘本故九條殿御領薨逝給後依御遺言被寄法華堂也○行囊抄此村ヨリ右ノ方小幡ノ渡ヲ渡リ八幡ニ到ル路アリ宇治川ナリ

餘戸 名勝志按今四宮村東有余古木村是餘戸郷遺名乎安祥寺境内古文書云山城國宇治郡餘戸郷石雲里○信濃地名考山城國宇治郡餘戸廢れて與古木村存す今近江國滋賀郡に屬す○行囊抄横木是ヨリ左ノ衢ニ入テ三井寺邊ヘモ出又京白川ノ邊ヘモ出ルハ古關越ノ路ナリ○今按出雲風土記に依神龜四年編戸天平里故云餘戸他郡且如之云云あるにてなへて諸國なるもさる故にて名におはしゝなるへし近藤芳樹云餘戸を與古木と唱ふるハ音によりて訛れるもて阿麻邊と訓へし即出雲風土記にいへるハろの證也戸令に凡戸以五十戸爲里若山谷阻險地遠人稀之處隨便量置義解に若滿十戸者依上法立別里これ五十戸に餘れるゆゑに餘戸といふ祇苑日涉爲阿麻別の說ハ非也

小野乎乃 名勝志今小野村在醍醐寺北勅修寺東○花鳥餘情山城國に小野里と云所二ッ有宇治郡に小野有○姓氏錄山城國皇別小野朝臣注孝昭天皇皇子天足彦國押人命之後也○多武峯縁起齋明天皇二年内臣有病蟄居山城國宇治郡小野郷山階村陶原家救療○諸陵式小野墓贈太政大臣正一位藤原朝臣高藤在山城國宇治郡

山科也末之奈 名勝志東限逢坂南限醍醐西限松坂北限山北小野郷山科ハ今昔物語ニ粟田山ニ行テ北山科ニ行ヌト云々南山科ハ北山科ヨリ慈德寺ノ南大門ノ前ヨリ河原ニ出タリト云々然ハ則北山科ハ粟田口ヨリ行キ南山科ハ滑谷ヨリ出ルカ○名所方角抄京東の部に粟田口より相坂へ行中の間なり○顯注密勘相坂山ハ山城と近江との境なり關より西ハ山階なり○類聚國史天智天皇八年五月天皇縱獵於山科野皇太弟藤原内大臣及群臣皆悉從焉(日本紀同之)○後拾遺集石山にまゐりける道山科といふ所にて休み侍けるに家あるし心さまに見え侍けれハ今歸るさになといひけるをよにさしもといひ侍りければ(歸るさとまち心見よかくなからよもたゝにてハやましなのさと(和泉式部)○内廐式五月五日山科園進早瓜一捧○諸陵式山科陵近江大津宮御宇天智天皇在山城國宇治郡兆域東西十四町南北十四町陵戸六烟○江次第北山科又日岡東御廟野陵側有小社鳥居額云天智天皇○水鏡天智天皇十年十二月三

日御門御馬に奉りて山階へれいして林の中に入てうぜ給ひぬいつくにれいすといふことをしらす只御沓の落たりしを陵にはこめたり（帝王編年記同之）○三代實錄貞觀十四年五月勅遣從五位上守右近衛少將藤原朝臣山蔭到山城國宇治郡山科村郊迎勞渤海客又元慶七年二月勅正五位下平朝臣正範到山城國宇治郡山科野邊郊勞渤海客○神名式山科神社二座○行囊抄宇郡治山科村俗ニヤッコ茶屋トイフ山科七郷或十八郷ト云ヲ村々多キ中ニ山科トイフハ是ナリ○今按今も山科郷とよへり

小栗栖　久留須　名勝志今勸修寺南醍醐西有南北二村小栗栖二村之間有出深草坂路土人云天正十一年明智光秀逃勝龍寺城赴坂本城時過此路爲此里人被害故云明智越○保元物語平城太子高岳親王嵯峨天皇ニ位ヲ超テ御恨ノ餘リニ御出家アリテ醍醐山ノ邊小栗栖ト云所ニ暫住セ給ヒキ○節用集小栗栖○田邑麻呂傳記弘仁二年五月二十七日葬於山城國宇治郡栗栖村今俗呼爲馬背坂○名所方角抄栗栖野小野池醍醐の西なりいなり山のひかしなり京よりは辰の方に

宇治　今按久世郡にもあり古事記傳一地の二郡にわたれる也○神名式宇治神社又宇治彼方神社（今宇治に彼方町といふあり）○續紀天平十三年九月行幸宇治及山科○三代實錄天安二年八月令山城國司警護宇治與渡山崎道以東南西三方通路衝要也○詞林采葉引日本紀云皇極天皇五年春三月戊寅朔幸吉野宮而肆宴焉庚辰幸近江浦焉以之吉野宮ヨリ幸比良宮中途ニノ宇治ノ故宮ニ假庵ヲ結ヒ御座ヲリト見エタリ萬葉（二）秋の野に美草かりふきやとれりし兎道の都のかりはしおもはゆ此御製ノ文字遣ヒモ兎道ト書リ日本紀令符合山城風土記云兎道者輕島明宮御宇天皇御子兎道稚郎子造桐原日桁宮以爲宮宅因之御名號兎道本名曰許乃國矣彼是宇治都無相違者○萬葉集（十一）千早人うちの渡のはやき瀬にあいずいありとも後も我つゝ（八麻呂）○名勝志宇治川湖水末也廻近江國勢多田上櫻谷而落宇治末入淀川也土人云昔宇治川流出巨椋故古橋亦在于西○拾芥抄大橋部山崎勢多宇治○明衡往來東望橘小島西顧宇治之長橋○續紀文武天皇四年三月道昭和尚物化（河內國丹比郡人俗姓船連）孝德天皇白雉四年入唐後周遊天下路傍穿井諸津濟處儲船造橋乃山背國宇治橋和尚之所創造者也○靈異記高麗學生道登者元興寺沙門也出自山背惠滿之家而往大化二年營宇治橋（扶桑畧記同之）○行囊抄宇治ノ町橋ノ西南ハ久世郡ナレヒ町ノ名ヲ宇治ト云自往古如斯宇治闕白殿宇治大納言ノ舊跡曾平等院ノ地トイヘリ菟道稚郎子ノ宮モ今ノ離宮ノ地トイヘリ然レハ郡名ハ久世ニシテ里名ハ宇治ナルヿ

イチシルシ○木工寮式凡山城國宇治津雜材運賃錢自同津至前瀧津樽一材功一文半

久世郡

竹淵多加不知　正濫抄ふをいまうのことくいへり○名勝志さたかならす○今按類聚雜要抄用途料山城國竹御園奈美とありもしゝ此竹淵の淵字の落たるかまたは後に竹とのゝよひたるにか考ふへし　奈美内膳司式園地京北園(十八町三段)奈良園(六町八段)山科園(九段)奈美園一座○類聚雜要抄奈美御園(瓜茄子蘿蔔)○年中行事秘抄山城國御園件御園桓武天皇所建給也　那羅名勝志男山東木津川西端有上下二村○崇神紀十年天皇向山背擊埴安彥率精兵進登那羅山而軍之時官軍屯聚而蹈跙草木因名其山曰那羅山○三代實錄元慶六年五月久世郡奈良野樵夫牧豎之外莫鵰放鷹追兎○類聚雜要抄山城國奈良御園(瓜茄子蘿蔔)○內膳式園神奈良園三座○東大寺古文書(賣渡進作手畠新立券文事)合壹段者(在奈良鄉)右件畠元者中原氏二女之相傳私領也但領家者賀茂御領地子物芋伍升追年無解怠可升進文永六年六月十三日(賣人中原氏女嫡男記)　水主神名式水主神社○文德實錄天安二年七月宣命雨師乙訓水主貴布禰神等爲祈雨也入夜天陰小雨○名勝志土人呼水主村今入綴喜郡云在下津屋東南川端○又云今水主村森內有社是水主神社歟　那紀東大寺奴婢籍帳久世郡那紀里戶主水尾君眞熊戶口○萬葉集(九)名木河作歌三首また(九)(衣手の名木之河邊を春雨にわれたちぬるとゝ家もふらんか)○八雲御抄井蛙抄我庵は宇治川邊也喜撰かすみかゝゝむろの奥なり河の南北と宇治といふ歟また云宇治川ゝ俗にれくらといふ所なり○岷江入楚引李部王記云天曆元年十一月太上天皇陽成院御宇治院遊獵山野○又云天慶八年十月朱雀院(宇多帝)庄牧勘物云宇治院萱原庄被留後院○花鳥餘情河原左大臣融公の別業宇治鄉にあり陽成天皇ゝらく此所においしましけり宇治院と云所也宇多天皇朱雀院と申も領し給へる所也承平の御門こゝにて御遊獵ありけること李部王記に見えたり其後六條左大臣雅信公の所領たりしを長德四年十月の頃御堂關白此院を買取て同五年八々宇治の家に向ひて乘舟の遊なとありき宇治の關白の代になりて永承七年に寺になされて法華三昧を修せられ平等院と名付侍り治曆三年に行幸ありきいまゝ藤氏の長者の知所なり○さらしな日記(初瀨詣)宇治の渡につきぬからうして渡りて殿のさふらふ所のうち殿をいりて見るにもうきふねの女君のかゝる所にや有けんなとまつ思ひ

出らる○行藍抄橋の西南は久世郡なれとも町の名を宇治と云自古往如斯宇治關白殿宇治大納言の舊跡皆平等院の地といへり苑道稚郎子の宮も今の離宮の地といへり然れは郡名なれは久世にして里名い宇治なることいちしるし

殖栗名勝志さたかならす○節用集山城殖栗○姓氏錄左京神別上天神殖栗連(中臣氏同祖)

栗隈久里久末仁德紀二年冬十月堀大溝於山背栗隈縣以潤田是以其百姓每豊年也又推古紀十五年是歲冬山背國堀大溝於栗隈○名勝志今長池町北ニ長池ノ跡トヲ廻ニ堤アリ今ノ町モ古ヘノ池ノ跡ナリト云是昔ノ栗隈ノ大溝ナルヘシ○續紀仁明天皇天長十年十二月行幸芹川野栗隈山遊獵○百錄抄永久元年四月與福寺大衆爲遂天台之會稽參洛之間所發向之武士等於栗前山合戰(中右記云源平輩遣宇治一坂邊)○保元物語僅十七騎栗栖山ニ馳向フ(今按京師本作栗籠山同錄倉本作栗子山)然栗隈栗前栗籠栗子等皆同所)○東鑑承久三年六月毛利入道駿河前司向淀手上等武州陣于栗子山○名勝志今從宇治至田原坂路曰栗子山越有峠土人呼國見峠此處乎○大和物語(栗隈の山にあり和名抄栗隈(久里久末)とある是なり能宣集にくりこ山なる人の家にをうなとも紅葉見侍り(紅葉みるくりこまやまの夕かけをいさわかやとにうつしもたらんこと書のくりこ山いまの字落たるにやと思へと俗にはさいふにや保元平治物語の歌にも(なら法師くりこ山まてをふり來ていかものくをいきそとらるゝ)○三代實錄久世郡栗前野○類聚國史延曆十一年二月遊獵于栗前野十二年九月遊獵于栗前野○日本紀畧栗隈野○蜻蛉日記初瀨のかへさの所くりくまのみやけ

富野止無乃今按今東西富野あり○名勝志長池町西有富野村土人云長池町元自富野村出在家也○東大寺古文書山城國富野郷内南村於當村之散在者舍兄備前守政清于時遁世號宗信避狀炳焉之上早彼一村同散在田畠彌可被領知文明十八年十一月廿三日小笠原幡磨守殿元長散位加賀守

拜志名勝志今久世村在長池町北大和路○行藍抄自伏見到于此或富野ニ云○御教書案山城國禾女司領久世村文明十四年十月廿九日文書云華嚴禪院寺(附勢州大桑名城州赤目庄内)於院主職者門徒評議可任之也城州久世村依爲便宜之地寄附之(子曇判)○萬葉集一山しろのくせのもりなる草な手折そおのか時たちさかゆとも草な手をりろ(人麻呂)又(十一)玉久世の消き河原にみろきして厮る命も妹かた

めなり○藻鹽草玉久世河原山城○名勝志按是久世河原歟今久世村ト長池町トノ間ニ有川此邊乎可尋○桃花蘂葉家領幷敷地等之事山城國久世庄爲春日社神供料所辰市權預代々致奉行者也此中毎年六十人夫役爲家門之得分○蜻蛉日記初瀨詣の段に山城國久世のみやけといふ所にとまりぬ○今按久世村の東南に久世社といふもあり

羽栗 姓氏錄栗栗注小野朝臣同祖彦國葺命之後也○今按神名式雙栗神社三座とあるハ雙の畧双字と羽の字の似かよひたるより雙となれりやともれもへと猶いかゝあらん○三代實錄貞觀元年正月奉授正六位上雙栗無位小社神並從五位下

綴喜郡

山本 今按今も山本村あり木津川の西なり○名勝志在飯岡村南○續紀和銅四年正月始置都亭驛山背國相樂郡岡田驛綴喜郡山本驛○三代實錄貞觀十二年七月山城國言綴喜郡山本鄕山額裂陷長二十二丈廣五丈一尺深八尺底廣四丈八尺相去七丈小山堆起草木無變動○東大寺奴婢籍帳山背國綴喜郡山本里戸口錦部田禰戸口○拾々ヵ今玉集建久二年右少辨資賢に山本の庄を給たるよしを聞て

多河 按板本傍訓にタカハとあるハ誤なるへし河も音にてよむ例なり○名勝志今多賀村邊歟○多賀志引和名抄云多河鄕在綴喜郡此所歟今中村市野邊村巽有多賀村○太平記笠置城没落兎角シテ夜畫三日ニ山城國多賀郡(今按鄕誤)ナル有王山ノ麓マテ落サセ給

田原 多八良 名勝志自宇治一坂田原鄕口ヘ二里八町坂路ナリ從鄕口長池ヘ一里半鷲峯山ヘ一里半田原鄕入口狹ク谷中廣シ今十五村アリ鍼隱レ里ト云ッヘシ類少キ奇境也此鄕ノ内湯屋村三ノ谷アリ湯屋谷中谷鹽谷ト云鹽谷中ニ古キ蛤貝多シ加樣ノ所外ッ國ニモ海邊遠キ所ニアリトカヤ古ヘトテモ海ニテ有ヘキ所ナラス開闢以前ニリモ有シ物ニヤ不審シ宇治ニリ田原ヘ越ル路危嶮ナリ是ヲ栗子山越ト云一里許行テ峠アリ國見峠ト云東ハ鷲峯山ヲ限リ南ハ伊駒山金剛山西ハ兵庫出崎淡路嶋近クハ八幡山崎大原野小鹽山淀伏見天神森木津川ナト眼下ニ有リ又久世郡高尾村ト田原鄕ノ間ニ嶺アリ明峠ト云○又云凡此道自田原鄕禪定寺村有二道北ヘ出レハ近江國曾束村ヲ經テ大石村ヘ行南(出レハ小田原村ヲ經テ大石ヘ出ルナリ大石ハ文德實錄ニ近江國一關之一也今大石ノ北勢多ノ南ニ關ノ津ト云ハ昔ノ關ノ古路ナリ○續紀天平寶字八年九月大師藤原惠美朝臣押勝逆謀頗泄遂起兵及其夜相招黨與遁自宇治奔據近江山城守日下部

子麻呂衛門少尉佐伯伊多智等直取田原道先至近江燒勢多橋○三代實錄元慶六年五月綴喜郡田原野樵夫牧豎之外莫聽放鷹追兎○康富記康正元年十一月隼人司領當國大住庄并宇治田原鄉同西京隼人町○盛衰記壽永二年七月資盛大將軍トノ貞能等ヲ相具ノ二千餘騎宇治路ヲ廻テ近江國ヘ指下サル○宇治拾遺清見原天皇大友皇子の中ナカ亂をさけて吉野山より山城國たいらといふ所におわしゝよし

喜　**豆々木**　仁德紀三十年秋九月天皇伺皇后不在而娶八田皇女納於宮中時皇后到難波濟聞天皇合八田皇女而大恨之更還山背興宮室於筒城岡南而居之冬十月遣的臣祖口持臣喚皇后爰口持臣至於筒城宮雖謁皇后而默之不答時口持臣沾雪雨以經日夜伏于皇后殿前而不避於是口持臣之妹國依媛仕皇后適是時侍皇后之側見其兄沾雨而流涕之歌曰（山しろのつゝきのみやにものまをす我せをみれは涕くましも○繼體紀五年十月遷都山背筒城○舊事紀都遷山背謂筒城宮（名勝志土人云今不知其地但興戸村與陀々羅村邊有宮口又御所內云所方一里半計地也是都舊地歟）○萬葉集（十三）空見津倭國青丹吉寧樂山越而山城之管木之原○古事記高津宮條筒木○古事記傳今の世

綴　**志磨**　名勝志今長池西有志磨村此地歟○類聚符宣抄天曆二年大政官符綴喜郡嶋郷有中村今屬久世郡

大住　名勝志松井村南手ハラ川ノ北ニアリ○今按今も大住鄉存れり○東鑑文曆二年五月石清水八幡宮寺興福寺有確執及喧嘩等云々是薪大住兩庄用水（今按薪庄い大住村の巽天神森ノ乾にあり）相論之故也（今按大住庄興福寺領薪御園石清水八幡宮領也）○康富記文安五年正月自山城國大住隼人司領公事物七種菜十二把上三把未進○又云當國大住庄內隼人領大嘗會田申田地一町二反有之大嘗會時參洛於官廳奏風俗舞人役是也○古事記傳大隅薩摩國の隼人等の朝廷に召れて仕奉れるか永く留りて京近き國の人になれるも子孫までなほ隼人と稱て其職に仕奉れるなり隼人式に五畿內近江丹波紀伊等國隼人とある是なり又諸國隼人とあるも右の國々のをいふなり和名抄に山城國綴喜郡に大住郷あるも大隅國の隼人の留り住しよりの名なり中原康富記に隼人司領山城國大住庄とみえ又康正元年十月十七日當國大住庄內隼人司領名主南未知實名

有智　神名式內神社二座甲作續紀靈龜二年九月正七位上山背甲作客小友等二十一人訴免雜戸除山背甲作四字改賜客姓○東大寺奴婢籍帳山背國綴喜

郡甲作里戸主粟國加豆良部人麻呂戸口　餘戸

相樂郡

相樂佐加良加　名勝志今云相樂村在木津村西南半里許和州郡山道西也○古事記垂仁天皇御宇於是圓野比賣慟言同兄弟之中以姿醜被逐之事聞於隣里是甚慟而到山城國之相樂時取掛樹枝而欲死故號其地謂懸木今云相樂○西宮記(齋王入京事)依凶事入京者聞京告早退寮用伊賀道給願宮官府事造山城相樂頓宮○江次第(齋王歸京次第)過大安寺邊幷奈良坂至山城相樂頓宮(在木津川南)○萬葉集(三長歌)朝霧にはのになりつゝ山代の相樂山の山際をゆき過ぬれゝ○神名式相樂神社○諸陵式相樂墓贈太政大臣正一位藤原朝臣百川淳和太上天皇外祖父山城國相樂郡兆域東西三町南北二町守戸一烟又後相樂墓贈正一位藤原氏同天皇外祖母在山城國相樂郡贈太政大臣墓內無守戸(今按後紀弘仁十四年五月詔云外祖父贈右大臣從二位藤原朝臣百川外祖母尙縫從三位藤原氏宜加崇班式照悉壤外祖父可太政大臣正一位外祖母可正一位)○類聚國史天長八年十二月相樂山陵令掃清讀經爲祟也(名勝志山陵未考或謂相樂墓歟)○續紀天平十二年五月天皇幸右大臣相樂別業宴飲酣暢授大臣男无位奈良麻呂從五位下(名勝志橘諸兄公別館在井手里東觀音寺南三町許舊跡山麓北)大塚南大塚云田間泉水築山跡少々殘又岩松中嶋ナト云田字アリ山吹ハ此谷ノ奥高堤ト云所ニアリ花ハ一重也井手ノ蛙ハフロノヤブ本名御國裏ト云所ニアリ)

水泉以豆美　續紀寶龜元年十二月賜左大臣正一位藤原朝臣永手山背國相樂郡出水鄉山二百町○萬葉集(四)いへ人に戀すきめやもかばつなく泉之里に年のへぬれは又(十七)讃三香新京長歌の反歌楯並而伊豆美乃河波乃水をたえすつかへまつらん大宮所又(六)讃久邇新京歌の一首にをとめらか績麻繫云鹿背之山時のゆけれは京師となりぬ今按すへていにしへの久邇鄉のうちなること云るし三香原鹿背山みなこのはとりなり名勝志和泉の國としたる說もわれとあやまりかといへり○崇神紀十年九月武埴安彥與妻吾田媛謀反逆與師忽至各分道面夫從山背壻從大坂共入欲襲帝京彥國葺向山背擊埴安彥挾河屯之各相挑焉故時人改號其河曰挑河今謂泉河訛也○蜻蛉日記初瀨詣の段泉川もわたりてはし寺といふ所にとまりぬ(今按これ泉橋寺也)○三代實錄貞觀十八年三月山城國泉橋寺申牒曰故僧正行基五畿境內建立四十九院泉橋寺是其一也泉河渡口正當寺門河水流急橋

梁易破每遭洪水行路不通當在道俗合力買得カ名勝志賀茂郷今有六村里村北有賀茂大船二艘小船一艘施入寺家以備人馬之渡役

賀茂

渡自木津渡二里東也是ハ伊賀路ノ驛宿ナリ○又云今木津渡東二里許賀茂郷内里村有賀茂明神社泉川南端森内坐小社也○行囊抄自奈良到于此二里半○扶桑畧記寛治六年三月山階寺大衆數百人引卒燒失山城國木津川柴里村賀茂庄○萬葉集（かも河の後瀬しつけみ後もあハん妹にハ我といまならすとも）○神名式岡田鴨神社○風土記岡田賀茂○三代實錄貞觀元年正月奉授岡田鴨神從五位上

大狛

名勝志今上狛村歟在平尾村南木津渡北山際○又云郷名廢村存○應仁記山崎天王寺軍條大内ハ上山城之狛ト云所ヲ城郭ニ拵テ究竟ノ者トモヲ置ケル○今按欽明紀三十一年高麗人越の國に漂着のよし國人の奏により有司におほせて於山背國相樂郡起館賓養これより郷名になれるか○三代實錄欽明天皇時百濟以高麗之寇遣使乞救狹手彦復爲大將軍伐高麗其王踰垣而遁乘勝入宮盡得珍寶貨賂以獻之珠敷天皇世還來獻高麗之囚今山城國狛人是也○續紀天平神護元年八月從三位和氣王（舍人親王孫）坐謀反誅流伊豆國到山背國相樂郡絞之埋狛野○永享年中寺社文書山城國狛野庄與福寺十二大會并若宮祭禮料所永享二年十一月廿五日○姓氏錄山城狛造高麗國主夫連王之後也

蟹幡

名勝志玉水町南平尾村北有綺田村○垂仁紀三十四年春三月天皇幸山背左右奏言之此國有雀人曰綺戸邊（カバトヘ）姿形美麗山背大國不避之女也仍喚綺戸邊納于後宮生磐衝別命○中右記寛治六年二月春日祭使中納言殿於加波多河原暫留御馬前驅皆下自馬候左右是爲御覽射藝義綱朝臣武士也云云○神名式綺原坐健伊那太比賣神社○名勝志綺田村氏神社在蟹滿寺南森内土人カチハラノ社ト呼疑是綺原神社歟○萬葉集（三十）薩妙觀命婦報贈葛城王諸兄卿歌（麻須良乎等於毛敝流母能乎多知波吉氏可爾波乃多爲）爾世理曹都美家流今按このかにはのたゐい契沖云樺田井也雜式云凡山城國泉川樺井渡瀬者官率東大寺工等每年九月上旬造假橋來三月下旬壞放云々此樺井渡と有所なるへし

祝園

波布曾乃

崇神紀彦國葺射殺埴安彦其軍衆脅退則追破於河北而斬首過半屍骨多溢（アフレタリ）故號其處曰羽振苑○神名式祝園神社○三代實錄貞觀元年正月奉授從五位下祝園神從五位上○元亨釋書釋永緣姓藤氏吏部郎中永相之子也母遠州刺史江公資之女緣九歲喪父母携赴南京憩柞森于時興福慈善受維摩講師詔赴賀於洛都儀衛甚壁母語兒曰汝父已亡我寡不能字故將汝肆業于南寺安得如此僧都汝其勗乎已而師事一乘院賴眞應德元年冥維摩講詔時年三十七母歿而久矣遂赴賀於柞森忽念

母昔訓感泣不進僕促行緣曰汝等不知昔我九齡伴母氏息此地先妣誨
勵能爲我林木如舊昔人非也我豈可堪乎今按此こと新千載にいまた
凡僧に侍ける時母の常に維摩會講師せんを見はやと申けるに身ま
かりて後はとなくかの請給ハりてならへ下けるに柿の杜をすくと
てよめる(うれしさにまつむらしころ戀しけれはゝその森を見るよ
つけでも(權僧正永緣)○名勝志祝園神社ハ柿杜内坐神社歟件社土人
云春日明神○よし野詣記泉川のあたりうちすき柿のもりにいたり
て(春にたに柿のもりとよるよりも分て霞もうすき色かな○今按南
北祝園村あり下狛之毛都古末名勝志木津川西祝園村西飯岡南有下狛村上狛隔川(今按川は木津川なり)

大和於保夜萬止國式大　續紀天平九年十二月改大倭國爲大養德國同十九年三月改大養德國依舊爲大倭國○拾芥抄天平勝寶年月日改爲大和國○國造本紀大倭國造○今按名義とりくの說ありてたしかならすたゝ近藤芳樹かゞとハと音通へは和さ處の義なり代々の帝都のありし國にて人氣やはらきたるよしなりといへるに從ふへくや又按天武紀五年倭國飽波郡といふあり何處なるにかえれす

國府在高市郡行程一日　行程國府より京都迄の行程なり下みなこれにおなし　管十五類聚國史十五郡○續紀天平六年五月太政官奏稱大倭國十四郡公私舉稻每郡有之　田萬七千九百五町九段百八十步正公各二十萬束本稻五十五萬四千六百束雜稻十五萬四千六百束拾芥抄田萬七千五町七反○主稅式正公同　添上曾不乃加美　添下曾不乃之毛今按此二郡始めハ一郡なりしか後にしか分れたるなり神武紀己未年二月層富縣とあるハいまた分れさる先なり欽明紀に至りて添上郡と見えたれは當時ハはやく二郡に分れたるなり神遺方佐野邊久壽里大和國添上賣太主乃家の方也とありろのかみサノヘとも訓ゑにや○三代實錄貞觀六年大和國言平城舊京其東添上郡其西添下郡和銅三年遷自古京都於平城於是兩郡自爲都邑延曆七年遷都長岡其後七十一年都城道路變爲田畝○姓氏錄大和神別添縣主注出自津速魂命男武乳遺命也　平群倍久里　舊本群を郡に作るハ誤○三代實錄貞觀八年五月以大和國平群郡雲日寺從五位下猶本神列於官社　廣瀨比呂世　萬葉集(七)廣瀨川袖つくハかりあさきをや心ふかめてわ

かもへるらん○天武紀五年祭大忌神於廣瀬川曲○神名式大和國廣瀬郡廣瀬坐神○神社啓蒙即龍田社相隣之處也○東大寺天平二年大税帳廣

淵郡

葛上加豆良岐乃加美　**葛下**加豆良岐乃之毛　今按今かつゝやうかつけとよへり○國造本紀葛城國造○神社啓蒙葛城神社在葛上郡葛城山○續紀文武天皇四年十一月大倭國葛上郡○續後紀承和六年五月大和國葛上郡○武神紀乙未年五月高尾張邑有土蜘蛛皇軍結葛網而掩襲殺之因改號其邑曰葛城○諸陵式片丘馬坂陵兆域東西五町南北五町○山陵志孝靈陵在傍丘馬坂傍丘是舊都西南而其西並葛城山延迤乎南者里所因號傍丘焉馬坂其西北而葛城之麓也接大和西偏古葛城國也後世分爲二郡曰葛上葛下葛下即傍丘西地所謂片岡莊也片岡莊田池及片岡氏之墟並在下牧片岡即傍丘則其墟與池所在牧地果是傍丘也馬坂今之馬瀬坂在達磨寺西獨其地西山是麓而與傍丘隔離數町因知傍丘非西山而其名泛蒙此間或指西山曰傍丘謬也

忍海於之乃美　古事記傳此郡ハ葛城上下郡の中間にありて古ハ葛城の內なり今も忍海村といふもあり○神功紀五年桑原佐糜高宮忍海凡四村○續紀大寶元年大倭國忍海郡人三田首宇智。冠辭考文武紀に內野と書り和名抄に此郡に阿陁江あれは即ち阿陁の大野ともいへるところなるをいにしへハ郡の名のまゝに內野といひしなるへし○續紀文武天皇二年二月車駕幸宇智郡大寶二年大倭國吉野宇知二郡百姓云々同三年宇智和銅七年有智○諸陵式宇治

吉野與之乃　續紀和銅三年四月大倭國芳野郡始置大少領各一人主政二人主帳一人○名跡幽考西南ハ紀伊國をさかひとし東ハ伊勢國につゝく凡大和一國ハ三ッか二此郡なり○宗良親王千首寄郡祝(君かすむよしの丶郡名にふりてろのかひありと今そしらるゝ○今按應仁記同別記吉野十八郷とあり赤松記にもえかあり

宇陁宇太　神武紀戊午年二月菟田○續紀慶雲二年宇太郡○靈異記宇太郡○三代實錄貞觀元年九月宇陀水分神○神名式宇太水分神社○太神宮諸雜事記垂仁天皇廿五年天照坐皇太神天降坐於大和國宇陀郡于時國造進神戸等(今號宇陀神戸是也)是巳皇太神宮始天降坐本所也○神鳳抄二宮御領白布十八段宛宇陀神戸卅七丁三段三百歩十一石二斗一升五合內宮御祭御神酒代白布廿一段如先分定○菅家文草寄雨多縣令江維緒

城上之岐乃加美　古事記御眞木入日子印惠命坐師木水垣宮治天下一絶也傳に此宮ハ在三輪村東南志紀ハ縣神社西と大和志にみゆいかさまにも此あたりにそ在けん○崇神紀三年九月遷都於城磯是謂瑞籬宮○神武紀戊午年五月倭國磯城邑有磯城八十梟

師○武烈紀元年太子命有司設壇場於泊瀬列城陟天皇位遂定都丕三年十一月作城像於水派邑仍曰城上也○神名式城上郡志貴御縣坐神社○大三輪神三社鎮座次第大倭國磯城縣○日本釋名敷嶋の都のあとゝ長谷の谷口ひろき所慈恩寺村の下五六町にあり玄は原少し殘れり○靈異記大和國葛木上郡○今按今式上式下と書けり

城下之岐乃之毛　續紀天平勝寶二年二月大倭國城下郡

高市多介知　神名式高市御縣坐鴨事代主神社又高市御縣神社○今按今俗高いちとよへり欽明紀七年倭國今來郡といふこと見えたり正濫抄勝地吐懷編等今來ゝ高市郡の地名なりといへり

十市止保知　神名式十市御縣神社○東大寺天平二年大税帳十市御縣神戸稻壹阡伍拾貳束租貳拾束○今按師用集トイチと訓す今もトイチとよへり

山邊夜萬乃倍　崇神紀六十五年七月山邊○神名式山邊御縣坐神社○東大寺天平二年大税帳山邊御縣坐神戸稻貳佰陸拾貳束半租壹拾束○續後紀承和三年三月大和國山邊郡荒廢山十町賜宗廉親王○靈異記山邊郡磯城鴨村

添上郡

山村也末無良　欽明紀元年二月百濟人已知部投化置倭國添上郡山村己知部之先也○古本今昔物語大和國添上郡山村の里に住ける人あり云々○靈異記大和國添上郡山村中里○萬葉集（二十）幸行山村之時歌二首（安之比奇能山行之可婆山人乃和禮爾依志米之夜麻都刀曽許禮舍人親王應詔奉和歌（安之比奇能山爾由伎家牟夜麻妣等能情毋之良受山人夜多禮

猶中　今按殘編風土記平城鄉あり猶中ゝ榴鄉なるへしまたゝ諸陵式奈保節用集山あれゝ猶山の誤かと上田百樹いへり

山邊　節用集山邊

楊生也　木布いま大柳生村小柳生村とて有三代實錄貞觀元年九月養父山口神今大柳生村に在て天皇と稱へる神なり○行囊抄南笠置村ヨリ左街ヨ入テ笠置山ヲ弓手ニ見テ南ノ谷合ヲ行ハ柳生ヘ出ル路ナリ柳生マテ一里

八島也之末　諸陵式八嶋陵崇道天皇在大和國添上郡兆域東西五町南北四町守戸二烟（帝王編年記古市の里の南なり名跡幽考に藤原の南にあり釋書にこゝを山階の地といへるゝ山階寺近き所なれゝにや）○今按三代實錄仁和元年九月大和國添上郡八島鄉いまも八島鄉といへり此鄉中に藤原村といふあれと藤原の宮所ゝろこなりやあらす

大岡（オホヲカ）　春日加須加　神名式春日神社又春日祭神四坐やさたかならす頭注神護景雲二年垂跡於大倭國

添上郡三笠山○古事記傳開化紀元年冬十月遷都于春日春日此云固酒鵝繼體卷勾大兄皇子御歌に播屢比能可須我能倶爾なとありさて此地名の起の事姓氏錄大春日朝臣の條に見えれとうたかはし其詞に彼氏の先祖大雀天皇の御代に糟を以て垣にせしに因て糟垣臣と號たまへるを後に春日臣とあらたむとある此說によるとき本糟垣なりしか後に省りて加須賀となれるなりさて又其糟垣はもと賜りし姓なれは地名になれるは後のことゝ聞ゆ然れとも此說の疑かはしきよしは先書紀の綏靖卷に既に春日縣主といふこと見えま た此段にも如此春日之云々とあるは正しく地名なるに彼糟垣のことは遙に後大雀天皇の御世とあれはなりされは地名を本にて彼姓は其地によれるにこそありけめ然れとも若彼說をたすけて云へは糟垣のことといはと上つ代のことなりけんを誤りて大雀の御世とは傳へたるにやそはもしくはかの糟垣に因て其地名は加須賀と云來つるを後に姓に賜ひしか大雀の御世なりしにやあらむさて糟を以て垣とすと云るはいかなることゝとろといふに古には川の堤のことく廣くつきたる垣もありとおはしけれは云云○東大寺古文書春日村○名跡幽考今世添上郡春日の境地にかきりて奈良といへり古へは添上添下の郡ともに奈良にころ侍らめ先は平城宮又古歌にならの菅原元亨釋書奈良之古京殖槻大宅幷河氏興地志今は春日も大宅もこれらの所とも添下郡にあり廢て白毫寺村に存して俗に宅春日といふ○姓氏錄大和神別大家臣條大中臣朝臣同祖津速魂命之後也○東大寺奴婢籍帳大和國添上郡大宅鄉戸主大宅朝臣可是麻呂

添下郡

村國　名跡幽考村國墓所云られす村國はやまとの國添下郡にあり贈正一位安倍命婦と諸陵式にあり

佐紀　續紀神護景雲三年八月葬高野天皇於大和國添下郡佐貴鄉高野山陵○諸陵式狹城盾列池後陵志賀高穴穗宮御宇成務天皇在大和國添下郡兆域東西一町南北三町守戸五烟○神名式佐貴神社○大和志佐紀鄉己廢存超昇寺常福寺二村○萬葉集咲野○靈異記大養宿禰眞老者居住諸樂京活目陵北之佐岐村○古事記沙紀之多他那美○前皇廟陵記狹城鄉名續紀作佐貴在奈良西超昇寺戊亥盾列池今沒藥師寺其跡云○諸陵周垣成就記狹城盾列の池と申所未詳○山陵志狹城畸也言山阜陬隅今超昇寺西北爲山陵村實是山阜陬隅而有四池焉池皆南北縱列里老相傳故七池其三已作田所謂盾列池即縱列池也盾縱音借也○類字名所集佐幾野未勘○風雅集春山のさきのゝすゝきりさわけてつめる若菜にあ

は雪そふる〔藤原基俊〕○勝地吐懐編これい萬葉第八に(春山の開の乎)鳥里に春菜摘妹之白紐見九四與四門このうたと取用たる也大和國添下郡に佐幾といふ所あり日本紀に狹城とありそこにや○名跡幽考佐紀山いらたひめ村の西にあり此山ならよりみもるろれを佐紀山といふよし八雲御抄に見えたり萬葉(十)春日なる三笠の山に月も出ぬかも佐紀山にさける櫻の花のゑゆへく佐紀池い俗に水上の池とぶい磐田八幡縁起曰神功皇后池上にはうふり奉ると云々もしく い池上の池といふへきを水上の池とあやまりていふにや狹城池い垂仁紀三十五年十月作倭狹城池と見えたり又楯波池ともいふ續紀神龜四年六月從楯波池飄風忽來吹折南苑樹二株即化成雉とあり

矢田　續紀養老七年戊午始築矢田池○姓氏錄大和神別矢田部饒速日命七世孫大新川命之後也○神名式矢田坐久志玉比古神社二坐○元亨釋書金剛山寺俗に矢田寺といふ○名跡幽考矢田寺松尾寺の北矢田野○和訓栞矢田野い添下郡矢田の邊なり

鳥貝止利　加比今按此郷名ふるくい鳥見とありけんを後に鳥貝と改められしかまたい字形の似たるによりてはやく誤りたるにもあるへしろい神武紀戊午十二月皇師擊長髓彦連戰不能取勝時忽然天陰而雨氷乃有金色靈鴉飛來止于皇弓弭其鴉光曄煜狀如流電由是長髓彦軍卒皆迷眩不復力戰長髓是邑之本號焉因亦爲人名及皇軍之得鴉瑞也時人仍號鴉邑今云鳥見是訛也とあるにておもふへしさて矢田の郷名も皇弓弭云云によしありけに聞えたりまた垂仁紀二十五年作倭狹城池及迹見池萬葉(八)衛門大尉大伴宿禰稻公跡見庄作歌(いめたて丶跡見の岳邊のなてしこの花ふさたをりわれはもていなむならひとのため續紀和銅七年十一月登美箭田二郷云々神名式に添下郡登彌神社なとみなトミとよへり古事記傳に鳥甘部の件に此鳥貝をも引て大和國添下郡鳥貝郷あり此外にも鳥養てふ地是彼此ありといはれたるいたかへり但外の國々なるい鳥養の義なり

平群郡

那珂鉤波阿久奈美　今按鉤い飽の誤天武紀五年飽波郡とあるこ丶なるへし○東大寺古文書飽波村○上宮聖德太子傳補闕壬辰年十一月飽波村有虹終日不移人皆異之

平群倍久利　神名式平群石床神社又平群神社又平群坐紀氏神社○靈異記平群驛春日驗記大和國平群郡夜摩郷に一の靈地あり竹林西方有小池

夜麻　春日驗記大和國平群郡夜摩郷に一の靈地あり竹林殿と號す春日大明神の御影向の所なり○名蹟幽考

引玉林抄云法琳寺資財雜物錄云法琳寺東限法超寺界南限鹿田池堤北限氷室池堤西限板垣峰在平群郡夜摩鄉右寺斯奉爲小治田宮御宇天皇御代歲次壬午年上宮太子起居不安于時太子願平復卽男山背大兄王并由義王等始立此寺也所以高橋朝臣預寺事者隋三穗娘爲太子妃矣太子薨後以妣爲檀越今斯高橋朝臣等三穗娘之苗裔也維于時延長六年歲次戊子三百一十歲云々集十三鳥網はる坂手乎過石ハしる神なひ山云々畧解に景行紀坂手池を作と有今城下郡に坂手村有と見ゆ然れハ坂手ハ此郡ならすもしくハ手ハ戸の誤にハあらぬか

額田　奴加多　姓氏錄大和諸蕃額田村主注云吳國人大國古之後也

坂門　坂門○萬葉

廣瀨郡

城戸　冠辭考木上宮萬葉に高市皇子尊木綿宮殯時と云るし諸陵式に同し皇子の墓大和國廣瀨郡にありとみゆさて和名抄同國同郡に城戸鄉あり武烈紀に作城像於水派邑仍曰城また集中に城於道と書たりこれらさま〳〵に書たれと皆同し地なれハ中に城綿城戸なと書たるを以て總て幾の倍とはよむなり○古事記玉垣宮卷木戸の傳云紀伊國より倭に入る戸にて眞土山を越て通ふ道なり萬葉に木綿宮なとあれとそこにはあらす萬葉卷々に紀伊國に往來し人の彼山を越たる歌多きハ此道なり眞土峠とて大和宇治郡より木國伊都郡に越る大道なり

上倉　**下倉**　**山守**　應神紀五年八月令諸國定海人及山守部

散吉　神名式廣瀨郡讃岐神社○三代實錄元慶七年十二月散吉大建命神散吉伊能城神並從五位下○地名字音轉用例さぬき倭散吉鄉ハ神名帳ニ讃岐ノ神社トアル處ナルヘク思ハル〻故シモツマカリ崇峻紀元年廣瀨勾原○古事記勾之金箸云々傳ニサヌキトセリ

下句　云勾大和國廣瀨郡なるへきか和名抄下勾と云鄉あり是志毋郡麻賀理とよむへし

葛上郡

日置　姓氏錄大和諸蕃日置造又日置倉人高麗國人伊利須使主之後也○出雲風土記神門郡考ヘシ

高宮　多加美也神功紀五年桑原佐糜古事記大倭帶日子國押人命坐葛城室之秋津嶋高宮忍海凡四邑

牟婁　宮治天下也傳云孝安紀二年冬十月遷都於室地是謂秋津島宮今神功記五年桑原

桑原　上鳥　古事記傳鳥ハ鳥の誤なるへし下室羽村これなり

同○續紀天平寶字八年十一月詞

高鴨神於大和國葛上郡高鴨神者法臣圓興其弟中衛將監從五位下賀茂朝臣田守等言昔大泊瀬天皇獵于葛城山時有老夫每與天皇爭獲天皇怒之流其人於土佐國先社所主之神化成老夫受被放逐於是天皇乃遣田守迎之令祠本處○神名式葛上郡高鴨阿治須岐託彦根命神社四坐

下鳥　大坂（オホサカ）履中紀元年太子到河內國埴生坂而醒之顧望難波見火光而大驚急馳自大坂向倭至于飛鳥山○天武紀元年將軍吹負既定倭地便越大坂往難波○三代實錄貞觀元年九月大坂山口神○姓氏錄大和神別天孫大坂直注天道根命之後也○古事記傳神名式に葛下郡大坂山口神社あり葛上葛下と郡の異なるゝ堺近けれゝ別にゝ非す孝德天皇の大坂礒長陵も河內の石川郡にて此山の西面なりさて此道ゝ古ゝ往來し大道なりしを今ゝさはかりの大道にゝ非す穴蒸越と云て葛下郡穴蒸村と云より河內國古市郡飛鳥村に到り古市なとを經て難波の方に通ふ道なりさて其穴蒸村に並ひて逢坂村と云あるゝ大坂なるへきを後世にゝォホとァっと一ッに唱るから誤て逢字を書なるへし

楢原奈良波良　太平記東國勢初度ノ合戰ニ負ケレハ楠カ武畧侮リニクシトヤ思ヒケン吐田楢原迄ハ打寄ン和訓栞神戸ゝ日本紀に見え戸令にくゝし神社に

神戸（カムヘ）和訓栞神戸ゝ日本紀に見え戸令にくゝし神社に租稅を奉る農民をいへり○垂仁紀二十七年定神戸以餘戸時祭之

葛下郡

神戸（カムヘ）名跡幽考龍田の南にある神南ゝ平群郡なり和名抄平群郡に神戸なし但神南ゝ平群郡にありて葛下郡の北の近隣なれゝ舊神南ゝ葛下郡の內節用集葛下郡山直

高額（カカヌカ）額　同賀美　今按續紀寶龜五年十月公麻呂居大和國葛下郡にてありしにや

山直（ヤマヌハ）

國中村因地命氏なとあるにむかへたる地名にて國上なるを國を省き上を賀美としたるか

蔡田（カテタ）

品治保無智古事記玉垣宮天皇御寢之時覺卜御夢曰云々布斗摩邇々占相而求何神之心爾祟出雲大神之御心故其御子令拜其大神宮云々出行之時到坐地定品遲部也傳云品遲部ゝ本牟智別王の御名を以て負せたる部なり大和葛下郡品治鄉因幡邑美郡品治鄉安藝山縣郡品治鄉備後品治郡品治鄉なとありこれも倭より出雲に往來の道なる國々なり此時に定れる品遲部の由緣の名にやあらん

當麻多以末　三代實錄貞觀元年九月當麻山口神○元亨釋書城下郡當麻鄉○神名頭注云當麻山口神人皇五十五代文德天皇仁壽三年始之內藏式夏四月冬

十一月並上申日祭之

忍海郡

津積

園人　姓氏錄大和諸番園人首百濟國人知豆神之後也○古事記穴穗宮巻五處之屯宅注所謂五村屯宅者今葛城之五村苑人也傳云苑人ハ御苑に役はるゝ民なり職員令に園池司正一人掌諸苑池種殖蔬菜樹菓等佑一人令史一人使部六人直丁一人園戸とある園戸即ち苑人にて其戸皆園池司に屬るなりかくて葛城の内にあり苑人の戸五村なるさるゝもと屯家なりしか後に其民苑人にて在しなりこゝの園人鄉是其五村の地なるへし(忍海郡ハ葛城上下郡の間に在て葛城のうちなり)**中村**今按續紀寶龜五年十月葛下郡中村これなるへし上にいへる如く忍海郡ハ葛城上下郡の間に置たれハ始ハ葛城の内なりしなるへし　**栗栖**勝地吐懷編引類字名所集云栗栖小野山城○續千載集旅人(さしすみのくるすの小野の萩の花ちらん時にし行て手向ん)大納言契沖云此歌ハ萬葉第六より出たり彼集云大納言大伴卿在寧樂家思故鄉歌二首たゝゑし行てみてしか神なひの淵ハあさひて瀬にかなるらん次に今のうたあり伴氏の先祖道臣命高市郡に宅地を賜りて子孫も安堵しけれハ思故鄉といひて神南備淵をよまれたり然れハ此栗栖の小野といふも大和なりとゑるへし和名抄云忍海郡栗栖忍海も高市に隣近の郡なれハてれなるへし

宇智郡

阿陁陁音可濁讀　神名式阿陁比賣神社(いま阿陁鄉原村にあり)○三代實錄貞觀八年十月贈太政大臣藤原朝臣墓在大和國宇治郡阿陁鄉(阿陁村大冢山といふにあり)○諸陵式阿陁墓贈太政大臣藤原朝臣良繼日本根子推國彥尊天皇祖父在大和國宇治郡○行靈抄當麻の本堂より樂殿の井に行右ゝあり　**賀美**　**那珂**　**資母**

吉野郡

賀美行靈抄上芳野村名所にあらす　**那珂**　**資母**行靈抄下芳野村右の方宇加志の東方に日張山とて堂あり古跡の地なり其由緒可尋　**吉野**與之乃今按古事記に美延斯怒と見えたれハ吉野を古いゑゝと訓り應神紀十九年十月幸吉野宮とあり

てこゝい山水の世に絶たる地なれい太古より別宮ありて萬葉の歌に多くよめり○神名式吉野水分神社又吉野山口神社○續紀文武天皇二年夏四月奉馬于芳野水分峯神祈雨也今按古い水分山に坐せしか年々洪水に山崩れて今丹治村といふに遷せりとろ○菅笠日記丹治といふ所よりよしのゝ山口にかゝるやゝ深く入りもてゆきて杉むらの中に四手掛の明神と申すかおはすい吉野山口の神社なとにはあらぬにや

宇陁郡

漆部 奴利倍 今按大和志漆部郷今存和訓栞云日本紀漆部をぬりへとよめりうるしぬるといふことなり○靈異記大和國漆部里有風流女是即彼部イフ姓氏錄大和神別天孫伊福部宿禰又伊福部連天火明命子天香山命之後也 **伊福** 内漆部造曾之妾也 **浪坂** 奈無佐加 神武紀戊午年九月天皇陟菟田高倉山之顛瞻望域中時國見嶽上則有八十梟帥又於女坂置女軍男坂置男軍墨坂置炭具女坂男坂墨坂之號由此而起也今按三ツの坂の並ひたゝヶ多氣 今按紀のるによりて並坂とよひけんを後に浪坂と書たるにや國へ出る道に多氣といふ村あり神末村より行程三里 **笠間** 加佐末

城上郡

辟田 姓氏錄諸蕃辟田首都奴加阿羅志等之後也○春日驗記正安三年十一月條平田庄○久守云神名式乘田神社 **下野** シモノと訓むへし板本シモッケと訓るは誤なり **神戸** カムヘ大神宮參詣記大和國宇陀郡宇陀の神戸とあり郡の異なるは堺近けれはそ別には非さるへし **大市** 於保以智 大倭神社注進狀狹井神社在大和國城上郡書紀倭大神著穂積臣云々命大倭直祖長尾市宿禰令祭矣所謂大市長岡今狹井社地是也 **大神** 於保無知 今按知い和の誤即オホミワの轉音にて大三輪の義也いま三輪町といふ所奈良より行程五里○神名式大神大物主神社○神名頭注大神○一宮記三輪大明神大和城上郡○東大寺天平二年大税帳大神々戸穀貳佰壹拾漆斛漆斗肆升貳合○薗事紀大物主神密通玉依姫時人無知者姫懷姙父母怪疑問云誰人來到乎姫答云頃者人自屋上攢來于吾所共同寢也父母欲知之採針與糸授姫曰令彼神人以此針可着其衣裾此夜神人來臥姫如父母教朝見彼糸自鑰穴出認跡尋過節度山吉野山留三諸

山其糸纒綰有三輪故名三輪上市行藝抄吉野河の北の岸は上市驛也舟渡をして上市に到れは勢州路幷多武峯泊瀬路なり今泊瀬町といふ

所なり長谷波都勢姓氏錄大和神別長谷部造饒速日命十二世孫千速見命之後也○神名式長谷山口坐神社○三代實錄貞觀元年九月長谷山口神○菅笠日記よきの天神にまうつ社は山のはらにやゝたひらかなる所にたゝせ給へり長谷山口坐神社と申せるはこれなとにもやおはすらんまた云出雲村黒崎村なといふ所をすく此あたりゝ朝倉列木宮なとの跡と聞しかはいとゆかし今按長谷朝倉宮ゝ雄略天皇都長谷列木宮は武烈天皇れ都なり○續後紀承和十四年十二月勅大和國城上郡長谷山寺高市郡壺坂山寺元來靈驗云々付所由編爲定額永以官長令檢校也○長谷寺縁起城上郡長谷郷○吉野詣記さのゝわたり過る程云ゝかくてつは市より泊瀬にまゐりぬ○古事記傳長谷の川大和國眞中を流れたり初の瀬の意か川上は猶遠けれとも國中にてば此地ろ上瀬なるさて長谷と書くこと地のさまに因てなるへし此地名中古より波世とも云り今の世にはもとら波世とのみいへり○東大寺天平二年大税帳長谷神戸穀三拾參束伍斗參升○日本釋名長谷仙覺云なかくせはしといふ詞也さかるをばつせといへりつは詞の助也泊瀬と書るゝ其訓當る故書ゝ之假字なり篤信おもふにはせのはいはるかなる意はるかなるは長き也はせの谷はるかに長くしてせばし隱口のはつせと云へるも長谷はおくふかくて口よりはこもりて見えされはなり

恩坂於佐加今按恩は忍の誤なるへし○神名式忍坂坐生根神社恩坂山口神社○諸陵式押坂墓田村皇女在大和國城上郡舒明天皇陵內無守戸○三代實錄又押坂內墓大伴皇女在大和國城上郡押坂陵域內無守戸○三代實錄貞觀元年九月忍坂山口神○神武紀戊午年先擊八十梟帥於國見丘云々勅道臣命汝宜帥大來目可作大室於忍坂邑歷設宴饗誘虜取之道臣命於是奉密旨掘窖於忍坂而選我猛卒與虜雜居陰期之日酒酣之後吾則起歌汝等聞吾歌聲則一時刺虜時道臣命乃起而歌之曰於佐箇廼於明務霊夜珥比苦瑳波而云々○菅笠日記初瀬より多武の峯へゆく細道にかゝる此橋とはつせ川のなかれにわたせるはし也けり云々東の方にいと高き山をとへは音羽山とそいふ音羽の里といふもろの麓にあうとろ忍坂村は道の左の山あひにてやかてこのむらのかたいらをとはりゆく

城下郡

賀美　大和於保夜末止　崇神紀六年秋九月倭大國魂神託ニ淳名城入姫命ニ祭ニ倭國市磯邑ニ後改名曰ニ大倭邑ニ○今按大倭神社註進狀大倭神社在ニ大和國山邊郡大倭邑ニ出雲杵築大社之別宮也和訓栞云城下郡に入るはいかゝ神名式に山邊郡大和坐大國魂神社神社啓蒙にも大和社は在ニ大和國山邊郡大和里ニ即三輪泊瀬之間也所祭之神一座大國魂神とあり然るに續紀天平寶字二年二月勅曰得ニ大和國守從四位下大伴宿禰稻公等奏ニ偁部下城下郡大和神山生ニ奇藤ニ其根虫彫成文云々とあるを見れは大和郷いろのかみ城下郡に屬したるへし後の世に山邊郡に入りたるゝ猶考へし

三宅　美也介推古紀十五年每國置ニ屯倉ニこれより起れる名也和訓栞云三宅も屯倉におなし氏姓所名にいふ官府の類なり

鏡作　加加都久利荒木田久守云都上美字脫歟○神明式鏡作坐天照御魂神社鏡作伊多神社〔神名頭注に伊多ゝ石凝姥命〕又鏡作麻氣神社〔麻氣ゝ天糠戸命〕○東大寺大倭國天平二年大税帳鏡作神戸稻佰貳拾玖束租貳拾壹束參把○寶鏡開始天照大神入ニ于天磐窟ニ石凝姥爲ニ治工ニ採ニ天香山之金ニ以作ニ日矛ニ也彼石工神者即山跡國鏡作坐神也

黑田　久留多孝靈紀元年皇太子遷ニ都於黑田ニ是謂ニ廬戸宮ニ○今按今黑田村あり古事記傳に出雲風土記を引て云意宇郡黑田驛土體色黑故云ニ黑田ニとある此例によらゝこゝもさる故の名にや

室原　他本也今按注の也字によれゝ他本に原を屋に作れるか有し歟神名式村屋坐彌富都比賣神社又村屋神社東大寺大倭國天平二年大税帳村屋神戸大安寺資財帳大倭國五處注一在ニ式下村屋ニなとあるなれなるへし

高市郡

巨勢　今按神名式巨勢山坐石椋孫神社また葛上郡巨勢山口神社古瀨村にあり巨勢野も古瀨村にあり巨勢山は里の上方にあるをいふとゝ勝地吐懷編に高市葛上兩郡に亘る歟○萬葉集一（こせ山のつら〳〵つはきつら〳〵にみつゝ思ふなこせの春野を又十三（たゝにゆかすこゆこせぢからいはせふみとめぞわか來し戀てすへなを又七（わかせこをこちこせ山と人はいへと君もきまさす山の名ならし

波多　大和志波多郷今廢畑村存○靈異記高市郡波多里○神名式波多神社又波多毀井神社○古本今昔物語〔田村將軍始建ニ清水寺ニ語〕高市郡八多ノ郷ニ

遊部　倭訓栞是令にいふあろびべなるへし十市郡に小嶋小寺ァリ遊部川あり○ろふ川といふ古事記にゝ八日八夜遊ふとみゆ紀に八日八夜啼哭悲歎とゝゆされは遊部は此時の悲歌をなすもれ也凡遊は樂をいふこと仲哀紀にみゆ○萬葉集〔二長歌〕（山

つゝのまつるみつきと春へには花かさしもち秋たてはもゝちかさせりゆふ川の神もおはゝけにつかへまつると上つせに鵜川をたて下つせに小網さしわたし山川もよりてつかふる神のみ代かも○穂井田忠友云今俗訛言尊坊と呼所これなるへし○松葉名所集遊副川○今按三代實錄元慶四年十月高市郡夜部村とあるいこゝにはあらし歟もしこゝならんには舊くより唱へ誤れり

檜前比乃久末　續紀寶龜三年四月以檜前忌寸任大和國高市郡郡司元由者先祖阿智使主輕島豐明宮馭宇天皇御世率十七縣人夫歸化詔賜高市郡檜前村而居焉凡高市郡內者檜前忌寸及十七縣人夫滿地而居他姓者十而一二焉

久米　神名式久米御縣神社三座○神武紀二年春二月天皇定功行賞使大來目居于畝傍山以西川邊之地今號來目邑此其緣也

雲梯　宇奈天節用集雲梯○萬葉集(七)眞鳥住卯名手之神社の菅根乎衣にかきつけきせん兒もかも全(十二)れもはぬをれもふといはゝまとりすむ卯名手乃杜の神しゑらさん○今按宇奈天い溝の義か

賀美　後紀天長六年三月大和國高市郡賀美郷甘南備山飛鳥社遷同郡同郷鳥形山依神託宣也○神名頭注鴨事代主○舊事紀大己貴神娶于坐邊津宮高降姫神生一男都味齒八重事代主神坐倭國高市郡高市社之甘南備

十市郡

飯富　和訓栞もと飫富の文字にてはとよむへきを此書に飯と誤て書しより訓をもて唱來れり○神名式多坐彌志理都比古○神名頭注或號大社

川邊　加八乃倍神武紀二年使大來目居于畝傍山以西川邊とあるこゝなるへし

池上　今按下萩原の町より松山町に至る間に池上村といふあり○埋麝發香載十市郡印郡印者天平寶字五年十一月廿七日申部內池上鄕地主某家等家地沽券之事郡司名跡考神南備の飛鳥とつらね呼て萬葉歌にも神南備に解文也

神戸　名跡考神南備の飛鳥とつらね呼て萬葉歌にも神南備にあすか河をよみ合せたり飛鳥い高市郡なり倭名抄又高市郡に神戸なし十市郡に神戸ありて十市郡い高市郡の東につゝきて並ひたれい郡いたかひたれと近隣なる故に神南備の飛鳥といつゝくるなるへし高市郡に甘南備飛鳥社あり

山邊郡

都介　今按主水司式氷室山邊郡都介一處今山田村にあり隣村福住に氷室祠ありといへりこい仁德紀六十二年是歲頓田大中彥皇子

獵于鬪鷄磐野中有物其形如盧仍遣使者使視還來之曰窟也因問之云々啓之曰氷室也皇子則將來其氷獻于御所自是以後每當季冬必藏氷至春分始散氷の故事より起れり○神名式都祁水分神社（今鞆田村にあり）また都祁山口神社○三代實錄貞觀元年從五位下都祁水分神都祁山口神また山邊郡都介野○續紀靈龜元年六月開大倭國都祁山之道○江次第伊勢齋宮歸京之時大和國都介頓宮にて供御と奉る○東大寺天平二年大稅帳都祁神戸稻壹佰參拾陸束租壹拾束壹把合壹佰肆拾陸束壹把

星川

保之加波　姓氏錄大和皇別星川朝臣石川朝臣同祖武內宿禰之後也敏達天皇御世依居地賜姓星川朝臣（書紀同之）

服部

波止利

長屋

奈加也　續後紀承和十三年三月山邊郡長屋鄉○名跡幽考和銅三年二月藤原宮より寧樂宮にうつり給ふの時長屋原にして古鄉をかへり見給ひて（飛鳥の明日香の里をおきていなは君かあたりい見えすかもあらん（太上天皇）長屋原今長原村にありとろ

石成

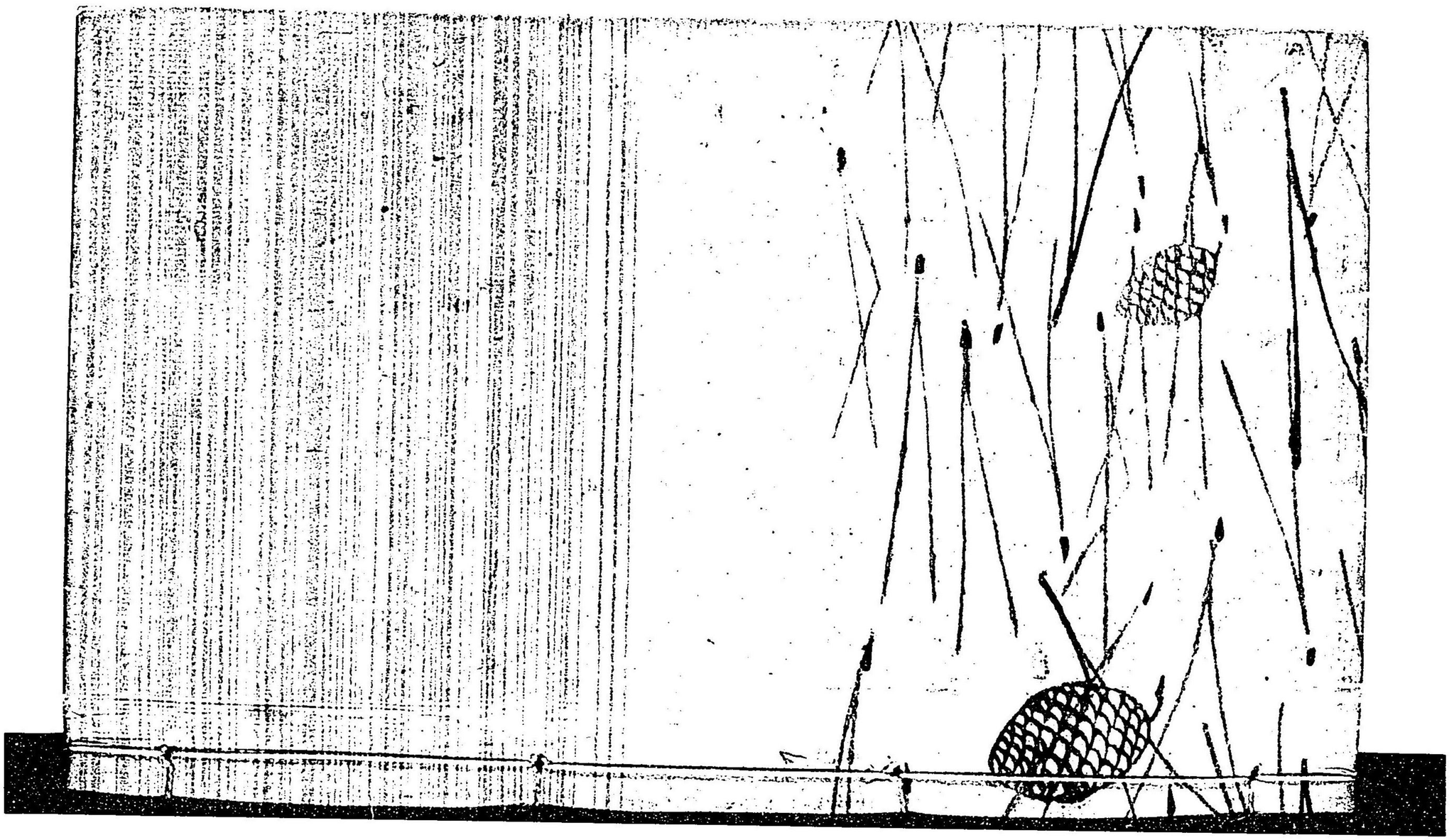
以之奈利　續紀神龜三年七月遣使奉幣帛於石成葛木住吉賀茂等神社○續後紀承和九年大和國石成

石上伊曾乃加美

古事記磯上○神名式石上坐布留御魂神社石上市神社○仁德紀八十七年正月太子便居於石上振神宮○武烈紀十一年八月影姬歌伊須能箇瀰賦屢遠過古茂萬玖羅高波志須幾云々○三代實錄貞觀九年三月進大和國從一位勳六等石上神階加正一位○姓氏錄布留宿禰栁本朝臣同祖天足彥國押人命七世孫米餅搗大使主命之後也男木事命男市川臣鵠鵠天皇御世倭賀布都努斯神社於石上御布瑠村高庭之地以市川臣爲神主○吉ふ遠野詣記磯上ふるの川つらをゆきてふるの社をおかみて咲花にけまそわくれ七十にちゝきもあはれふるの中道○名跡幽考磯上寺磯上村にあり石上在原山本光明寺と號して在原業平朝臣の住れし地に立られける寺なり拾芥抄に磯上寺は寶蓮寺と號するよし見えたれはいつの代よ本光明寺とは改たるにや○古今集ならの石上寺にて（石上古き都の時爲まそはかりこそむかしなりけれ（素性法師）顯注密勘に此歌の端書にならの石上寺にてと書る必えす奈良都い添上郡石上は山邊郡なり石上寺をならといはんことといはれなし只奈良を過てまかれは石上寺遠からぬにもひわたりて奈良の石上と書て侍るなり遠鏡に詞書なる石上寺は山邊郡石上にあるを奈良といへるまとは今の京にてば石上のあたり迄をもひろく奈良といひならへるなり丹波國なる愛宕山をも他國にては京の愛宕といふ類なり○今按いま樵本のつゝきに磯上村といふあり是より左の方布留の社の邊也磯上は此邊れ惣名也磯上寺また栁本寺ともいへりいま

はいさゝなる小宇遺れりとろ石上池は齊明紀六年に見え石上溝
屋中紀四年六月に見ゆ名跡幽考にいその上の五六町東寺井川是也
といへり

和名抄諸國郡郷考卷二終



291.034
To472w

023162-001-4

291.034-To472w

和名抄諸国郡郷考

富永　春部／著

M20-21

ADB-1208